

五 元禄十年一月、十二月

〔表紙〕  
元禄十丁丑年

万覚帳

〔衛門〕  
正月朔日、同十二月晦日迄  
土屋次郎左

元禄十丁丑年

正月朔日

同 二 日

同 三 日

一年內廿九日ニ矢地村善兵衛儀相濟候ニ付、三田村六右衛門殿へ善兵衛書状為持遣し候処、晦日ニ持参いたし御返事有之候へ共、暮ニ及其上急用ならず候故、今日善兵衛持参ニ候

同 四 日

同 五 日

一坂井郡与頭中不殘舟寄へ参、御陣屋へ年始之御礼申上、於御陣屋ニ御雜煮御酒被下候、雪故大野郡与頭中ハ不出候

一年內矢地善兵衛と金津若藤屋出入相濟候ニ付、御断仙右衛門様迄申上、三田村六右衛門殿へも御逢之節御礼被仰被下候様ニと申上候

同 六 日

一於御陣屋ニ神田喜兵衛御料理組頭中不殘被下候一舟寄、直ニ金津へ参、彦右衛門様其外御家頼中へ年始之御礼申上候而金津ニ宿り候

同 七 日

一金津へ罷歸り候

同 八 日

覚

一金九百九拾三両壹分余  
内

七百八拾八両三分  
子十月、同十二月

廿八日迄上納金

〔分九厘四毛

殘金貳百四両貳分余

拙者下村々

右八子御年貢之内半金納・万小物成・浮役・御藏前入用銀・御口銀米・拝借返上納金惣金高之内、初秋、極月廿九日迄上納金

右之通ニ御座候、以上

元禄十年丑正月十八日

前谷村  
次郎左衛門 印

御陣「」

右之書付御陣屋へ指上申候

一為年始之御祝詞と、坂井郡与頭中連状を以高嶋太次兵衛様へ指上候、小木仙右衛門様迄遣し申候

一為年始之御祝詞と、木内八九郎様へ自分書状指上申候、小木仙右衛門様迄遣し申候

正月九日

同十日

同十一日

同十二日

一本庄・三国・布目辺へ年始ニ参候

同十三日

同十四日

同十五日

同十六日

一当月二日ニ新用村宗右衛門夫婦いさかい仕候而、女房家出を仕行方知不申候処、福井毛屋ニ女死骸有之由福居宿へ申来り候ニ付、  
(渥美友信・福井藩寺社町奉行)  
為見ニ遣し申候、福居渥美新右衛門様へ女之出所御尋之由ニ候故、

先御断申上候と申来候ニ付、とかく福居参見届候而、重而此方へ申来り候様ニと申付候

同十七日

一仙右衛門様へ被仰越候ハ、当日ニ指上候年内取立目録之内少相違有之候ニ付、書直し指上候様ニと被仰越候

同十八日

一福居毛屋ニ有之候女死骸、新用村へ参候而見申候処、宗右衛門女ニ而無之候ニ付其断申罷帰候処、宗右衛門女道ニ而逢申ニ付、召連罷帰候由新用村へ断ニ参候

一布目村へ罷帰り候

同十九日

覚

一金九百九拾三両壹分余

子御年貢金之半金納・万小物成・浮役・御藏前入用・御口銀米代、拝借返上納金共ニ

内

七百八拾五兩

子十月廿八日迄上納金  
金高七分九厘余

残式百八両壹分余

右者拙者と下村々子御年貢之内半金納・万金方物高之内、子初納へ同十二月廿八日迄上納金如此ニ御座候、以上

元禄十年丑正月九日

前谷村組頭  
次郎左衛門 印

## 御陣屋

同廿日

一 権右衛門舟寄年始之御礼ニ遣し申ニ付右之目録指上候処、当九日  
 二 指上候目録江戸へ被遣候間、不足金早々取立指上候様ニと被仰  
 遣候ニ付、右之目録ハ消申候

一 轟木村・菅野村御普請願帳之内ニ□合点不参事有之由ニ而、帳面  
 御返し被成候ニ付請取、右両村へ相尋申候

同廿一日

同廿二日

一 右両村之御普請帳吟味仕、書付菅野村人足ニ為持藤四郎様へ指上  
 申候

同廿三日

同廿四日

一 下関村「」申者同村茂右衛門と申者と出入有之由ニ而、書  
 付持参申ニ付請取候而、則下関村庄屋長百姓方へはいふ遣し申候

正月廿四日

「」之事

一 雑丸太長弍間半 末口四寸 壺本ニ付代銀(マ、)

一同 長弍間半 末口三寸 壺本ニ付代銀

一同 長弍間半 末口弍寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長弍間半 末口弍寸 壺本ニ付代銀(銀)

一同 長弍間半 末口壺寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長弍間半 末口壺寸 壺本ニ付代銀

一 雑丸太 長弍間 末口三寸 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口弍寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口弍寸 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口壺寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口壺寸 壺本ニ付代銀

一 雑丸太 長九尺 末口三寸 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口弍寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口弍寸 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口壺寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口壺寸 壺本ニ付代銀

一 雑丸太 長壺間 末口三寸 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口弍寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口弍寸 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口壺寸五分 壺本ニ付代銀

一同 長同 末口壺寸 壺本ニ付代銀

一 松丸太 長五間 末口八寸 壺本ニ付代銀

一 枝木 五尺 結繩壺束ニ付代銀

一藤 壹貫匁二付代銀

一竹 目通五寸廻り 壹本二付代銀

一小から竹 目通り式三寸廻り 壹本二付代銀

代銀合

右之通定書「」入札仕候間、落札ニ御座候者被仰付可被下候、以上

元禄十年丑正月

何郡何村  
札主 誰印

(古郡年明・鱒江代官)  
古郡文右衛門様

(稲葉勝行・石田代官)  
稲葉平右衛門様

(舟寄代官)  
宍倉与兵衛様

右御手代衆中

入札之事

一槓、壹尺、六面才、壹切二付代銀

一鉄目壹貫匁二付代銀

一大工、飯米・作料共二壹人二付

代銀合

右之通定書を以入札仕候間、落札ニ御座候ハ、被仰付可被下候、以上

元禄十年丑正月

何郡何村  
札主 誰印

古郡文右衛門様

稲葉平右衛門様

宍倉与兵衛様

右御手代衆中

入札定書

一槓入用材木、槓、節なし角木、長壹間ハ三間迄、太サ四寸角ハ壹尺式寸角迄、<sup>(板カ)</sup>□長壹間ハ三間迄、幅壹尺□寸ハ壹尺五寸迄、厚サ六分ハ三寸迄何も節なし上木、但柱・桁・小道具等ハ小節迄御目論見之通仕立指上可申事

一鉄物、釘・銚等御目論見之通寸幅・厚無相違仕立指上可申事

一大工之義、御目論見大工積リハ工数多懸リ候共、無違義仕立指上可申事、右槓材「」大工直段付メニ而落札御請可仕事

一雜丸太、寸間入札之通無相違成程直成木を以相渡し可申候、勿論少曲リ有之候敷、寸間不足御座候ハ、撰出し可被成候、入札寸間ハ余慶有之程之木を以相渡し可申事

一藤、上々藤を以相渡し可申候、勿論御用ニ立不申候太藤、こふ短キくすニ成候藤御座候ハ、如何程ニ而も御はね出し可被成事

一竹、本末直成竹を以相渡し可「」、枯竹・虫喰御座候ハ、御はね出し可被成候事、右雜丸太・藤・竹直段付メニ而落札御請可仕候事

一落札ニ而急御普請御座候ハ、何時ニ而も杭木・材木等急度出し、御手支無御座□可仕候事

一樋道具・杭木等附届之義、丹生郡・今立郡・南条郡ハ白鬼女迄、坂井郡ハ舟道有之候所迄、大野郡ハ普請場迄陸附ニ可仕□□、丹

生・今立・南条・坂井郡二而も、舟附之場所を道法寺里有之所ハ御百姓役ニ仕立可被下候、遠方之村ハ普請所を寺里ハ御百姓役、残之義ハ此方を相届可申事

一代銀請取候義者樋・杭木・藤・竹渡次第代□御□り御渡し可被下候御事

右定書之通少も相違仕間敷候間、落札ニ御座候ハ、可被仰付候、慥成請人相立御請可仕候、依之敷金三拾両相添入札仕候、御証文相極御普請取懸り候時分御留置可被成候、以上

元禄十年丑正月

何郡何村  
札主 誰印

(古郡年明・鱒江代官)  
古郡文右衛門様

(稲葉勝行・石田代官)  
稲葉平右衛門様

(舟寄代官)  
穴倉与兵衛様

御手代衆中

覚

一入札、当月廿九日迄之内ニ船寄穴倉与兵衛陣屋迄持参可申候事

一相札有之候ハ、鬩取可申付事

一札破候義ハ望之「」置現披可致事

右之通ニ相心得札持参可被致候、以上

丑正月

神田喜兵衛

青山藤介

高木茂太夫

一右書面之通当月廿九日ニ入札申付候間手前ニ写留、組下ニ而札入候者参候ハ、右之文言為書写札入候様ニ可被致候、尤入札望無之村ハ証文取置重而可指越候、右入札「」之儀ニ候間、早々写留同役ニ可被相廻候、以上

正月廿三日

神田喜兵衛印

坂井郡与頭中

右入札定書三通・御廻状を通布目を参候を請取写申候

正月廿五日

一右入札之書付共後山村へ遣し申候

一右入札之義与下村々へ申遣し候

一下関村市兵衛書付指上候ニ付、村二而「」相済候様ニと申遣し候へハ、茂右衛門参候ニ付段々口上を以聞申候

同廿六日

一轟木村伏樋関板之高サ・長サ「」藤四郎様を被仰越候ニ付、

高サ四「」左右・脇共ニ長サ三尺と書付指上申候

一轟木村不足銀之事、仙右衛門様を被仰付候故、助右衛門呼□候而段々申渡し候

同廿七日

覚

一丑年在々御普請所諸材木・鉄物「」竹・大工作料等入札<sup>(被)</sup>

仰付候間、「」者於有之□、入札認御陣屋迄指上候様にと

御定書を以被仰付候二付、右之段々拙者下村々へ委□申触候

処、入札望申もの無之由申二付、判形取置候故拙者方の一札指

上候処少も相違無御座候、為後日証文仍如件

前谷村組頭

元禄十年丑正月廿八日 次郎左衛門 印

御陣屋

正月廿八日

一右之書付為持舟寄へ御断二遣し申候

同廿九日

二月朔日

一与頭中三国河内屋方へ寄合申候

同二日

同三日

同四日

同五日

同六日

一三国の布目へ参候、大雪ニ而道跡無之二付滞留いたし候

同七日

同八日

同九日

同十日

一布目村の罷歸り候

一丑年宗門御改帳之案紙、布目の参候二付写取後山へ遣し申候

同十一日

一能州滝右衛門様・助左衛門様、仲間として年始之御礼ニ布目村権左衛門遣し申候

一源八二滝右衛門様の御状被下候二付御返状遣し申候、助左衛門様へも源八二御暇被下候御礼之書状遣し申候

同十二日

一下関村市兵衛・茂右衛門出入、庄屋長百姓扱ニ而相済申由断申二付、扱済証文を取置申候

一田中々村七右衛門・市兵衛出入、庄屋長百姓扱ニ而相済申由七右衛門断ニ参候

同十三日

同十四日

一矢地村権右衛門持高五石、申ノ年五年季ニ同村二郎兵衛方へ質物

二入申二付、子年年季明「」去暮代金調二郎兵衛ニ相渡し候  
 処、何角と代金二郎兵衛請取不申候二付、其節右「」中へ相  
 断申候と善右衛門参申二付、右「」之者共を以二郎兵衛方へ  
 相断申様二「」付候

同十五日

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

一笹岡村利兵衛持高、五年季二同村市郎兵衛ニ質物ニ□置申候処、  
 去暮年季明申二付代銀相済候へ共、証文返し不申候由断ニ利兵衛・  
 庄屋宗左衛門参候二付、証文之上之代銀さへ相済候ハ、証文早々  
 返し可被申候、其外指引有之候ハ、其「」重而可申出候と宗  
 左衛門「」

一東善寺村五郎兵衛妻子□人・与次兵衛妻子四人渴命ニおよひ申由、  
 庄屋利兵衛断ニ参候

二月廿日

一來ル廿三日ニ村々庄屋中被参候様ニと申ふれ候

同廿一日

一江戸高島太次兵衛様・川上利兵衛様、能州奥津滝右衛門様・渋垂  
 助左衛門様御返状、布目参候ニ付後山村へ遣し申候

同廿二日

同廿三日

一村々庄屋中参候ニ付、丑年宗門御改帳之義并亥・子両年之村遣帳  
 之義申渡候、次ニ指引子年手形共相渡申候  
 一舟寄へ参候

同廿四日

一何れも与頭中舟寄へ参候而、大雪ニ而村々難儀仕候間江戸表へも  
 被仰上可被下候、次ニ去年御訴訟申上候夫米御訴訟之儀、江戸  
 表へも被仰上被下候様ニと申上候  
 一去年被仰付候清酒之義弥御法度ニ候間、其段申渡候様ニと被仰付  
 候

一馬場村戸右衛門江戸書状ニ而被申越候ハ、金津<sup>(大宮茂富・福井藩金  
 津奉行)</sup>大宮彦右衛門様  
 御構之義御詫言仕候ハ、□候様ニと申越候ニ付、布目彦兵衛・舟  
 寄善右衛門同道ニ而金津へ罷出候

同廿五日

一三田村六右衛門殿へ戸右衛門義段々申上候へハ、此義輕々敷ハ相  
 済申「」候、自然□金津ニ罷有候舅其外一門共ニ御崇可有も

知不申候、先今度ハ隱密いたし罷歸り候様ニと御申被成候

同廿六日

一金津<sup>〆</sup>罷歸り候

同廿七日

|                      |      |
|----------------------|------|
| 一米三百拾四俵              | 下関村  |
| 一米貳拾七表               | 轟木村  |
| 一米貳拾四表               | 谷畠村  |
| 一米貳拾五表               | 東善寺村 |
| 一米貳拾六表               | 馬場村  |
| 一米貳拾壹表               | 新用村  |
| 一米五拾貳表               | 高塚村  |
| 一米六拾四表               | 十楽村  |
| 一米 <sup>(三)</sup> □表 | 西方寺村 |
| 一米三拾八表               | 清王村  |
| 一米百拾三表               | 青野木村 |
| 一米百拾五表               | 宮谷村  |
| 一米百三拾八表              | 山室村  |
| 一米百三拾八表              | 菅野村  |
| 一米八拾壹表               | 矢地村  |
| 一米貳拾四表               | 北村   |

一米六拾八表

田中村

一米百貳拾八表

中川村

一米拾五表

北野村

一米百五拾四表

笹岡村

一米拾三表

前谷村

合千五百八拾壹表

但四斗入

右者当丑春御廻米其村々納辻令割賦遣候間、如前々之米拵、あら  
くたけ・青死に米無之様ニ可致候、并俵拵之義古俵・腐り藁一切  
無之様ニ念を入、右之俵数急<sup>(度)</sup>□拵□可申候、追付津出し日限可申  
触候<sup>(間共)</sup>□□節手支無之様ニ可致候、若津出し令遲滞候歟、又ハ悪米・  
悪俵等於有之<sup>(者)</sup>□急度曲事ニ可申付事

丑二月廿三日

神田喜兵衛 印

右村々庄屋

長百姓 中

尚々此書付令披見、村下ニ庄屋致判形村次ニ無遅々相廻し、留り  
村<sup>〆</sup>与頭方へ相渡し、重而与頭<sup>〆</sup>可被相返候、以上  
右之御廻状閏二月四日ニ数右衛門様へ返上申候

二月廿七日

一十楽村照嚴寺様へ参、清王村庄や兩人・十楽村庄屋長百姓同心ニ  
而、清王甚右衛門・七郎右衛門去年<sup>〆</sup>照嚴寺殿旦那を引罷有候を  
中直シ帰参為致候、中直り之次第、親七郎右衛門代円通院様へ金

子貸申処相済不申候由、七郎右衛門去年申出し候処、其義寺ニハ御存知無之由御申二付中違ニ成申二付、七郎右衛門一代御寺懸り物・御布施共ニ出し申間敷定之証文、寺ハ七郎右衛門ニ御渡し被成候、甚右衛門義、与左衛門寄進之屋敷先年之通地子米京升弍斗宛、庄屋方へ毎年寺ハ御斗被成定ニ而相済候而、寺泊り罷有候

同廿八日

一今朝六ツ過ニ笹岡村清右衛門出火ニ而、次兵衛・五郎兵衛・利兵衛、高不持ニハ清左衛門・九郎介・七太夫・小兵衛・吉兵衛・五兵衛、右之拾人火事ニ逢候由、彦三郎・弥五兵衛注進ニ参候二付、吟味之上出火ニ紛無之由、則火本清右衛門ハ当分寺入仕罷有候由、庄屋長百姓之証文取置、右之通拙者証文いたし舟寄へ指上候、留書別紙ニ有

一十楽村ハ三国へ参候

同廿九日

一三国ニ而御廻米之義并材木之義ニ付逗留いたし候  
一東善寺村善吉と申者江戸へ稼ニ参候ニ付、廿七日ニ御陣屋ニ御断申上候へハ、御状共為御持今日江戸出立仕候由

同晦日

一下関村九兵衛・平右衛門三国へ参、廿八日之朝下関太兵衛と申者

馬場村ニ奉公仕休参候刻、下関・金津之野境ニ倒者有之由庄屋方へ告知らせ候二付、庄屋長百姓彼場所へ罷出吟味仕候処、野境之道を七・八間越候而金津地内ニ倒罷有候二付、下関ハ番人を付置、南金津庄や善右衛門方へ為告知申候得ハ、早速金津ハ庄や長百姓人足召連罷出、右之倒者引取金津ニ而吟味被成候へハ、福居青屋町長兵衛と申者ニ候故金津ニ而取置申由二候、然処翌廿九日之四ツ時分、(大宮茂富・福井藩金津奉行)大宮彦右衛門様ハ御組之内市川笹右衛門殿・田宮徳兵衛殿を御使ニ而下関村庄屋長百姓方へ被仰付候ハ、昨日之倒者之義廿七日之晩方下関村茶屋か辺ニ行なやミ罷有候由、加州へ通り候者金津ニ而咄し罷通り候、然ハ下関地内ニ而相果候を金津地内へ捨候様ニ相見得候、然上ハ御陣屋へ御断之上下関村へ神文可被仰付、其上与兵衛様当秋御下り之節可被仰達由御使御口上ニ被遣候、(六倉・舟寄代官)庄屋長百姓御使之衆へ申上候ハ、当村地内ニ而相果候を金津地内へ捨申義聊無御座、何様之神文ニ而も御意之通ニ可仕候由申上候、併乍居御返事申上候事憚ニ奉存候二付、金津へ参御断申上度候得共、御下知を不請他領之御役所へ参候事ニ兼而御法度ニ候故、御注進申上候と申二付、右之段々口上書ニ仕下関与三兵衛・平右衛門ニ為持御陣屋へ遣し申候

閏二月朔日

一昨日申上候下関村之義ニ付、御用候而早々参候様「」御陣屋被仰越候二付三国ハ直ニ参候へハ、喜兵衛様・数右衛門様被仰聞

候ハ、御代官所之内彦右衛門殿ハ直ニ御組者を被遣何角御申之義何共難心得事ニ候得共、左様ニ申候得ハ少之事ニ付節立之事ニ候間、下関村ハ百姓・水吞迄呼寄吟味仕、弥捨不申義ニ候ハ、証文を取、御陣屋為持遣し候而、拙者義ハ金津ヘ参三田村六右衛門方ヘ吟味之段々申達シ、乍此上詮義之残申義も有之候哉、若又下関ハ捨申たる儘成証拠有之候ハ、何様ニも吟味可仕候と、拙者自分之様ニ又陣屋ハ内意も有之様ニ申候様ニと被仰付候

閏二月二日

一舟寄ハ直ニ下関村ニ参、段々詮義仕候処相違無御座候ニ付、惣百姓・水吞迄耆人も不残判形為致、証文取候而御陣屋ヘ指上申候、留証文有

同三日

一筆申触候、然者最早雪も消懸り時分も長閑ニ罷成候ニ付、火之用心・盗人等之義大切ニ可仕候、不及申ニ候得共、村之内前後ニ番人等付置急度相守候様ニ可仕候、右之段江戸ハ申来り候ニ付如此ニ候、若此上不念之儀も候ハ、本人者不及申庄屋長百姓急度曲事ニ被被仰付候間、被得其意村次順々ニ相廻村下ニ庄屋印判いたし、留り村ハ支配与頭方ヘ相遣可申候、以上

丑二月晦日

神田喜兵衛印  
前谷組  
村々

右之通組下村々ヘ申触候条、留り村ハ遣シ次第披見之上、右之段常々相守候様弥可被申付候、此廻状相返し可被申候、以上

前谷村与頭  
二郎左衛門殿

右之御廻状、四日ニ数右衛門迄返上いたし候

一下関村ハ金津三田村六右衛門殿ヘ参、去廿八日之朝南金津と下関村之地境ニ倒者有之候を、下関村太兵衛と申者、馬場村ニ奉公仕罷有候ニ付休ニ下関村ヘ参候節、右之倒者見付候故庄屋長百姓為告知申ニ付、罷出右之場所改申候ヘハ南金津地内ニ而御座候ニ付、番人を付置南金津庄屋善右衛門方ヘ為告知候ヘハ、南金津長百姓人足召連罷出、右之倒者何之無子細も引取被取置被申候由、然処翌廿九日ニ大宮彦右衛門(大宮茂富・福井藩金津奉行)ハ市川笹右衛門殿・田宮徳兵衛殿下関村庄屋方ヘ被遣候御口上之趣、尤下関村之者共申聞候得共、如何様之御義ニ御座候哉御窺と存罷越候と申上候ヘハ、六右衛門殿御申被成候ハ、其倒者之義廿七日之晩方下関村近所ニ行瘦たる躰ニ而罷有候由、加州ヘ通り候旅人当所ニ而咄し候て通り申候、其上被者前日ハ笠着申由ニ候処、死骸之辺笠無之ニ付而、若下関村地内ニ而相果候を持出し捨候哉と申遣し、子細ニ依御陣屋ヘ被仰達神文ニ而も可被仰付と下関村ヘ被仰遣候と御「」ニ付而、下関村之者共申聞候御口上之様子少も無相違御座候、就夫下関村之者共乍居御返事申上候御事憚ニ御座候ニ付、早々罷越御断可申上義ニ御座候ヘ共、他領御役所ヘ罷出候事御陣屋ヘ参申上候而ハ成不申候ニ付、御断申上候得ハ拙者被召寄被仰渡候ハ、下関村も大勢

之人数ニ候へハ自然我儘仕候も相知かたく、其上金津町之者儘証  
 拠有之候ニ付、彦右衛門様へ申上候故御使被遣候様ニ相聞候間、  
 下関村へ参惣百姓呼寄屯人宛吟味仕候様ニと被仰付、昨朝々下関  
 村へ参十五以上之男たる者を呼出し吟味仕候へ共、右之倒者送り  
 出し申義も無御座、勿論捨申者も無御座候ニ付、ケ様く之証文  
 ニ判形百姓・水吞迄不残被致候と各段々申上候、ケ様ニ吟味仕候  
 得共詮義ニ残り申義も候哉、又爰元ニ慥成証拠も御座候哉、神文  
 御望ニ候哉、御相談申候様ニと御内意候而罷越候由六右衛門殿へ  
 申達候へハ、右之段々彦右衛門様へ御申上候へハ被仰出候ハ、今  
 度之倒者之義疑敷義共有之ニ付下関へ申遣し候処、御陣屋へ下関  
 村へ申上候ニ付、私吟味之段々被為入御念御事、此上者今度之義  
 ニ付下関村之者共我儘も無之段承届候、此以後ケ様之義ニ付福居  
 等と入組たる事も出来候ハ、何時ニ而彦右衛門様御出被成相済  
 申様ニ可被成候由、拙者与下など、福居表と入組申事有之候ハ、  
 早速可申来候、埒明申様ニ被成可被下由、御懇ニ被仰聞候ニ付而  
 罷歸り候

閏二月四日

一右之通覚書ニいたし并御廻米御割付村々へ被遣候御廻状屯通、火  
 用心之御廻米屯通、下関村之人足ニ為持候て数右衛門様迄指上申  
 候

一矢地村為右衛門持高之内六石四斗六升弍合、申ノ春々子暮迄五年

季ニ預ケ申ニ付、年季ヲ延証文仕かへ申度由二郎兵衛ニ相断候へ  
 共、何角と申埒明不申候由断申候ニ付はいふ遣し候  
 一右之通訴申ニ付矢地村彦助・二郎兵衛ニ参候様ニと申遣候得ハ、  
 彦助参候而右質入証文之通ニ候ハ、何様にも埒明可申候、証文之  
 表少ニ而も相違候へハ質高相渡し申事成不申候と申候

同五日

一笹岡村清右衛門火本ニ而火事参候ニ付、去月廿八日清右衛門ハ  
 同村称運寺方寺入被仰付候ニ付、同村庄屋長百姓・矢地村善右衛  
 門舟寄へ参御託言申上候付、証文被仰付寺入御赦免被遊候  
 一権瀬二郎左衛門方又市を以申遣し候ハ、笹岡村へ取置候質山、  
 笹岡村之者立入木葉等さらへ取候間、立入不申様ニ申付候様ニと  
 申遣候へ共、其山之義笹岡村之者共ニ様子相尋可申と申遣し候

同六日

一矢地村又右衛門参候ニ付、彦介申候段々申聞返し申候

覚

|             |     |
|-------------|-----|
| 一銀百三拾弍匁六厘   | 宮谷村 |
| 一銀五拾九匁七分屯厘  | 高塚村 |
| 一銀百五拾八匁四分七厘 | 山室村 |
| 一銀百四拾六匁九分九厘 | 中川村 |
| 一銀七拾八匁九厘    | 田中村 |

|             |      |
|-------------|------|
| 一銀貳拾七匁五分六厘  | 北村   |
| 一銀拾七匁貳分三厘   | 北野村  |
| 一銀百七拾六匁八分四厘 | 笹岡村  |
| 一銀九拾三匁貳厘    | 矢地村  |
| 一銀拾四匁九分三厘   | 前谷村  |
| 一銀三匁四分四厘    | 西方寺村 |
| 一銀百五拾八匁四分七厘 | 菅野村  |
| 一銀百貳拾九匁七分六厘 | 青野木村 |
| 一銀四拾三匁六分三厘  | 清王村  |
| 一銀七拾三匁四分九厘  | 十楽村  |
| 一銀貳拾四匁壹分壹厘  | 新用村  |
| 一銀貳拾九匁八分六厘  | 馬場村  |
| 一銀貳拾八匁七分壹厘  | 東善寺村 |
| 一銀貳拾七匁五分六厘  | 谷畠村  |
| 一銀三拾壹匁      | 轟木村  |
| 一銀三百六拾匁五分七厘 | 下関村  |
| ノ壹貫八百拾五匁五分  |      |

右者去子之御年貢米之内当春御廻米先達而米割相触候米辻、壹石  
ニ付銀三匁宛掛り銀割致相廻シ候、右之通当月中可被相納「」  
役人罷出候義ハ今月下旬ニ候間油断有間敷候、右村々之銀辻村下  
ニ印判致無遅滞相廻し、組頭方へ可被相返候、以上

丑閏二月四日

神田喜兵衛印

右之通其方組下へ申触候条、弥被申付無滞様ニ可被致候、此廻状  
陣屋迄可被相返候、以上

前谷村与頭  
次郎左衛門殿

右之御廻状閏二月十九日ニ宮谷村義太夫ニ為持藤四郎様へ返上

閏二月七日

同八日

同九日

一御廻米等万申談義有之候間来ル十日ニ各陣屋迄可被罷出候、為其  
如此二候

丑閏二月七日

神田喜兵衛印  
与頭中

右御廻状布目ノ参候を早々後山へ遣シ候

願状之事

一於当寺当月廿五日ノ四拾八夜之別時執行仕度候、其内少々之参詣  
人御座候共寄宿狼藉等之義寺中ノ堅可申付候条、別時執行仕候様  
ニ被仰付被下候者難有可奉存候、以上

元禄十年丑閏二月

前谷村  
松竜寺印

御陣屋

同十日

一舟寄へ参候二付、松竜寺願狀御月番二而藤四郎様へ四拾八夜執行被致候様二と被仰付候

一自分持山之内、権瀬村境上野二拙者家頼之者家仕指置山番為致、并山畑為作申度由願狀藤四郎様迄指上候へハ、於御陣屋二而御披露之上、何様ニも家を仕番人指置候様ニと被仰付候、願狀二庄屋市兵衛・長百姓・六兵衛加判仕指上候二付、留書有

一舟寄ニ而御廻米之義段々被仰付候趣ハ

御廻米江戸納才料(宰領)  
(北横地村権兵衛  
宮谷村義太夫)

三国立合  
(上関村次兵衛  
大味村市郎右衛門  
森川村次右衛門)

上乘  
忝番 前谷村武右衛門 貳番 舟津次右衛門  
三番 西村善右衛門 四番 玄女太兵衛  
五番 随王寺九右衛門

組頭詰  
忝番茂右衛門 貳番源左衛門 三番善右衛門  
四番二郎左衛門 五番彦兵衛 六番武兵衛

右之通御陣屋ニ而被仰渡候

同十一日

一御廻米御用ニ舟寄々直ニ三国へ参候

同十二日

同十三日

一申談候御用之事候間、明後十五日ニ陣屋迄可罷出候、尤各印判失

念有間敷候、以上

閏二月十三日

神田喜兵衛印

与頭中

同十四日

同十五日

一舟寄へ参候へハ於御陣屋被仰渡候ハ、当春永雪ニ而村々困窮之由最前ニ訴訟ニ候得共、去春御拝借仕又候訴訟難叶ニ付取上ケ不申候得共、麦も腐り百姓困窮紛無之候へハ殿様へ一先可被仰上候、然共願狀御取上ケと村々へ申聞候ハ、御廻米之問ニも可成候間、百姓ニハ不申聞、与頭中として願狀指上候様ニと被仰付候付、与頭共判形ニ而願狀指上申候、留書有

閏二月十六日

一舟寄々罷歸り候

同十七日

一清王村吉右衛門と申者、当十五日ニ宿を罷出行方知不申候由、庄屋長百姓注進ニ参候ニ付、吟味之上書付取置申候

同十八日

一与下村々庄屋呼候而、御廻米仕立誂候哉、村々仕出し候や、とか

く二早々津出し仕候様ニと吟味いたし候

一御廻米詔申義年内ハ御法度と被仰付候得共、村々断ニ付何様ニも詔可申候、就夫段々申渡候、証文判形取申候

一御廻米舟積ニ付而御役人様方三国ニ御詰被成候ニ付、村々御見廻ニ参候事御法度之由、他領火事場へ参間敷事、御料所火事見のかしニ仕間敷事、此証文ニ判形取、明日宮谷村義太夫江戸納庄や被仰付候御礼ニ舟寄へ参候ニ付、藤四郎様迄右之証文指上させ申候、留有

一宮谷村義太夫、江戸納庄やニ被遣候由申付候

同十九日

一矢地村仁介持高之内五年季ニ同村二郎兵衛ニ預ケ置候ニ付、請返し可申と申候得共返し不申候由、訴状指上候ニ付請取置申候

同廿日

一清王村郷藏去々年潰申ニ付其以後藏も立不申候、藏屋敷荒し置申ニ付地子米も村々相立不申候間、吟味之上申付候様ニと九右衛門方断申ニ付、郷藏早々立候様ニと庄や長百姓方はいふ遣し申候

子御年貢丑春御廻米内札指札之留

内札  
越前国坂井郡何村六倉与兵衛御代官所

米主誰印

元禄九年子御年貢米四斗入

米見誰印

子十二月何日

升取誰印  
庄屋誰印

右之通子御年貢米庄屋・米見・拙者立合吟味仕如此ニ御座候、以上

二

上札

子御年貢米四斗入六倉与兵衛御代官所

越前国坂井郡何村米主 たれ

俵印 壺式結繩之間

同廿一日

一十八日ニ与下村々庄屋中寄合之節、三国平八・出村甚左衛門・小木武右衛門対談ニ而、御廻米下々米壺表上打銀九分ニ而運賃なしニ詔可申由何れも申ニ付、請取主相談之上右之直段ニ而請取可申由申来り候ニ付、惣米高甚左衛門・太兵衛・武右衛門・庄左衛門、河内屋方へ村わけいたし村々へ遣し申候

一笹岡村惣左衛門・七兵衛・清右衛門・利兵衛呼寄候而、年内河内屋方預り米之内焼失之米を相改吟味いたし候

一笹岡利兵衛、市郎兵衛ニ高年季預ケ置申ニ付、代物相渡し高返シ候様ニと申候得共何角と申高返し不申候間、被仰付被下候様ニと訴へ申ニ付、明日市郎兵衛参候様ニと宗左衛門ニ申付候

一御廻米御用ニ数右衛門様今日三国へ御成候由ニ而、後山善兵衛も

三国へ参候

同廿二日

一高塚村山くへ(崩)こ(込)申二付、断有之二付普請所見分ニ参候

一喜兵衛様三国御米宿藏御見分ニ御出之由ニ候故、三国御見廻ニ参候而高塚村山くへ候事申上候へハ、少分之事ニ候ハ、拙者見を以普請為仕可申候、大分之事ニ候ハ、御役人様方御見分を請可申候、御扶持米之義ハ来年之帳面ニ載可申と被仰付候

閏二月廿三日

一喜兵衛様舟寄へ御帰リ被遊候得共、御廻米之義ニ付三国へ罷有候一御普請御入用之竹木、其村ニ有合候分ハ出シ候而、木屋共入札直段ニ而代銀其村々被下候由去子年被仰渡候ニ付、当年之様子窺候へハ被仰付候ハ、木屋共ハ入札本ニ候へハ代銀之内壺割程ハ木屋共ニ渡し可申候、入札之節木屋共ニ其通被仰渡候由

同廿四日

同廿五日

一三国を罷歸り候

同廿六日

一矢地仁助・彦介高出入之事、庄屋長百姓取扱相済候様ニと申渡し

候

一同権右衛門・二郎兵衛高出入之事も大方扱ニ仕懸置候由申二付、弥相済候様ニと申付候

一申談御用之事有之候間明廿七日ニ陣屋迄可被参候

二月廿六日

神田喜兵衛印

与頭中

右之御廻状後山を参候ニ付村次ニ而布めへ遣し申候

同廿七日

一舟寄へ参候得ハ於御陣屋被仰渡候ハ、先月中当国永雪百姓迷惑之段江戸へ申上候得、(ハ脱)則於江戸文右衛門様と御相談被遊御窺状御上ケ被遊候由被仰越候、就夫自然江戸を夫食願之者帳面指上候様ニと可被仰越も知不申候、最前之願状ニ帳面陣屋迄指上候と有之上ハ、内々ニ而帳面相改候様ニと被仰付候、夫食願之人数大積り并帳面案文別紙ニ有

一前谷源八段々不届之品々と与頭中へ申談、上乘ニ遣し申事成間敷由仲間へ断申候而、舟寄を罷歸り候

同廿八日

一私用ニ福居へ参候

同廿九日

一 福井を罷歸候

同五日

同六日

三月朔日

一 今日御廻船四艘三国へ入津仕候ニ付御用有之候間、与頭中明七日

一 高合拾五石

高塚村

ニ三国へ参様ニと藤四郎様御廻状ニ候得共、手前法事ニ付而明日

此代金三両貳分

参候事成間敷由与頭中御返事申上候

内

高五石本

市郎右衛門

三月七日

此金壹両貳分

同八日

高五石本

吉左衛門

一 三国へ参候得ハ藤四郎様を被仰付候者、御米村出シ之分ハ不及申

同壹両

ニ、詵米共ニ早々吟味仕御米納候様ニと被仰付候ニ付、詵米之分

高五石本

豊右衛門

下米早々出し、中札・指札共ニ持参仕候様ニと村々はいふ三国を

同壹両

出し申候

右ハ丑六月八日切利足壹わり半

一 高拾五石

高塚村

同九日

此代米四石六斗

一 三国ニ罷有候

右丑霜月中ニ

右式組之証文奥判いたし候

同十日

一村々庄屋中へ飢人改帳当八日ニ持参候様ニ段々くわしく申渡し候

同十一日

一 三国を罷歸り候

同二日

同三日

同十二日

同四日

一 北村五兵衛村仁左義ニ付訴状指上候ニ付、其段後山村茂右衛門

殿へ申遣し候、其元二而御詮儀之上被仰付埒明可申候哉、埒明間敷事二候ハ、訴状取次可申候哉、御左右次第二可仕と申遣し候

一 笹岡村利兵衛と市郎兵衛高出入之事、村二而埒明不申候と申来り候二付、庄屋長百姓方へはいふ遣し申候得ハ、宗左衛門・宗右衛門・市郎兵衛・利兵衛共ニ参候二付、段々吟味之上村中扱之通ニ相済候様ニと申候得ハ、双方納得ニ而相済候二付、扱証文判形を取申候

一 前谷村地内ニ倒者有之ニ付、庄屋長百姓立合相改其所ニ埋置申ニ付、右之段々書付を以舟寄へ御注進を申上候様ニと庄や市兵衛ニ申付候

一金津油屋徳兵衛方ハ、櫛村次右衛門・市郎兵衛ニ本金六両かし方有之候処、出入ニ及申ニ付自分扱申候ハ、跡々滞申利足を捨候而、本金六両之分只今三分、当春三分、来刁ノ年ハ未年迄壹ケ年二三分つ、都合六両年符ニいたし相済候様ニと、なへ屋藤右衛門ニ申聞候、則櫛村之衆中へも其通申渡し候

一 鎌谷村三右衛門ハ、矢地吉兵衛ニ貸金之事断有之候

三月十三日

一 前谷村市兵衛義倒者御注進ニ今朝舟寄へ参候二付、小木仙右衛門様迄書状相添候

一 宮谷村宗悦と申者之子教信と申者、親勘当仕候由書付指上候

一 前谷村武右衛門上乘請証文、宮谷村義兵衛江戸納人請証文、与頭

中之判形今日取申候

一 御廻米納方三国詰ニ罷出申候、下兵庫村武兵衛と代り申候

同十四日

一 雨ふりニ而御米納り不申候

同十五日

一 鷲塚村・東村・東長田村・松木村・本堂村・千歩寺村其外わたや庄左衛門・麦屋太兵衛都合御米五百八表納り

一 飢人村々、老人改帳、前谷村武右衛門ニ為持今日舟寄へ指上申候

同十六日

同十七日

同十八日

同十九日

同廿日

一 前谷村地内倒死申者、七日さらし置候得共人主知不申候二付、十八日ニ死骸を埋候而、証文今日舟寄へ指上申候

同廿一日

一 去子春伏替候古樋払代入札落札ニ成候間、此書付之通組々銀子取立早々可被指上候

一銀弍匁五厘

矢地村

一銀□分

北野村

一銀□分

田中村

一銀□匁

菅野村

右之通取立可被申候、以上

三月廿一日

神田喜兵衛印

与頭中

右村々へ申遣し候

三月廿二日

一与下之内村々ニ倒者有之候ハ、如何様ニ相改可申候哉と、御月番  
仙右衛門様へ窺候へハ、倒者有之候ハ、其村庄屋長百姓相改、疵  
有之候ハ、勿論疵無之者ニ而も年頃・衣類・諸道具不残書付、早々  
御陣屋へ可申上候、尤人主相知候ハ、何事なく請取候との証文取  
置可申候、若又人主知不申候ハ、右之通相改候而、其所ニ七日さ  
らし候ても人主無之候ハ、其所埋候而、人主知不申候ニ付其所ニ  
埋置候由其村の証文御陣屋へ可指上候、証文之案文別紙ニ有、埋  
置候所之札之案文ハ如左

年頃何程之<sup>男</sup>女当月何日ニ此所ニ倒死候、死骸相改候処疵も無之  
倒死ニ紛無之、死骸ハ何々々道具ハ何々有之候、右之死骸七日  
さらし候得共人主無之ニ付、衣類・諸道具共ニ不残此所ニ埋置  
申候也

何月何日

同廿三日

同廿四日

同廿五日

一今日三国の罷歸り候

一三匁銀不足之村々有之候間、早々指上候様ニと喜兵衛様を御はい  
ふ被遣候ニ付、与下村々申触候而御はいふハ御陣屋へ返進仕候

同廿六日

一当十九日ニ舟寄へ参候様ニと御陣屋を被仰越候処、自分義三国ニ  
而氣分悪敷候ニ付、布目彦兵衛被参候ニ付不参之義御断申上候へ  
ハ、被召寄候御用ハ喜兵衛様江戸へ御歸り被遊候ニ付、洪垂助左  
衛門様能州の御越候而御請込役、横田数右衛門様能州役ニ御越被  
遊候而、神田政右衛門様江戸の御越被遊数右衛門様御代り之由、  
何れも与頭中へ被仰渡、自分義氣分悪敷候ハ、不及参候と被仰越  
候得共、今日舟寄へ参候得共何れも御役人様方不残田之谷へ御参  
候ニ付、九郎左衛門殿ニ申置罷歸り候

一宮谷村宗悦と申者之子教信と申者を勘当仕候ニ付、其段書付を以  
申上候ニ付、右之書付九郎左衛門殿へ指上申候

同廿七日

一 助左衛門様能州の御越被成候二付、壹本松茶屋迄与頭中御迎ニ罷出申候、茶屋ニ而助左衛門様上下、与頭中上下、三国河内屋上下、わたや庄左衛門式拾三人昼食、茶屋の仕出し申候

一 三田村六右衛門殿へ参候而、中川村半兵衛・乗兼村庄右衛門出入之事嘸ニいたし度候間、下森田与頭二郎兵衛も御出し被下候様ニと申候へハ、双方ひまをかんかへ候而出会候而、嘸事済候様ニと六右衛門殿御申被成候

同廿八日

一 御廻米御用ニ三国詰番ニ参候、三国ニ罷有

同廿九日

四月一日

同二日

同三日

同四日

一 森田村源左衛門と今日代り申候、然共自分与下村々詵米相済不申候ニ付三国罷有候

四月五日

同六日

一 笹岡村御廻米河内屋方へ詵置申候、下米遅々仕其上指引之義ニ付

不埒之事有之ニ付、庄屋宗左衛門・七右衛門・宗右衛門・清右衛門・市右衛門・利兵衛呼寄候而、吟味之上段々下米代銀之預り証文ニ我等奥判ニ而河内屋ニ相渡し申候

同七日

一 三国の舟寄へ助左衛門様・政右衛門様御見廻ニ参候、夫の宿へ罷帰り候

同八日

一 矢地村又右衛門・彦介預ヶ高之儀村中扱申候処、不埒ニ付双方扱人共呼寄様子吟味之上、扱ニ而相済候ニ付証文取置申候

一 矢地村靈順を村中拔シ証文指上申候

同九日

同十日

一 宮谷村義太夫近日江戸出立ニ付、暇乞ニ参候ニ付段々申渡し、木内八九郎様・手嶋新之丞様・大角九太夫様、三嶋ニ而山田勘介様へ書状遣し申候

同十一日

一 矢地村さく方へ訴状指上申候ニ付、其段靈順ニ申渡し候

一 三国へ今日助左衛門様御越被成候ニ付、我等も三国へ参候

同十二日

一三国御廻米之義請取方せんきいたし候

同十三日

同十四日

一本庄因幡守様・河田主税殿妹轟木村浄光寺方ニ居被申候間、江戸引越申度由主税殿内意有之候間、浄光寺方の願状出し候様ニと則御陣屋案紙出候付、浄光寺へ其段申候処、其妹近年ハ金沢一門共之方ニ罷有候、尤呼寄候而も江戸へ遣シ可申事ニ候へ共、主税方の何之左右も無之とかく重而様子可申上由ニ候

同十五日

同十六日

一子御年貢金其外上納金御手形之分、村々の書出し庄屋長百姓判形仕、早々指上候様ニと被仰越候

一中川村四郎左衛門と乗兼村庄右衛門と出入候事、噯ニ為致可申由三田村六右衛門殿の当十一日ニ手紙参候ニ付、今日六右衛門殿へ参候へハ、御気分悪敷候而逢不申罷帰り候

一今日三国の罷帰り候

同十七日

一矢地村用水普請之義ニ、十四日ニ数右衛門様矢地村迄御越被遊御指図被成候ニ付、普請仕候ニ付罷出様子見申候

一矢地村六右衛門の歟を靈順三月十日たくり取候而、昨日返し申由断申ニ付、六右衛門口書取申候

同十八日

一田中村小兵衛子市郎右衛門・三九郎・馬場村戸右衛門、右之者共江戸の金子を遣し舟寄善右衛門方ニ有之ニ付、我等方の右兩人之者共ニ印判手かミ遣し金子請取せ申候

同十九日

一御簾尾村市郎右衛門、矢地村靈順方の取置候質高之埒明不申候由ニ而、市郎右衛門方の訴状指上「一」取次可申候哉、下ニ而埒明可申候哉と後山茂右衛門殿の御断被申越候ニ付、則靈順呼寄其段申渡候処、下ニ而埒明申事成不申候と申ニ付、其通茂右衛門殿へ返事いたし候

四月廿日

一何茂与頭中舟寄へ御見廻ニ参候ニ付、村々手（形）留之帳数右衛門様へ指上申候

一矢地村さく訴状・同村六右衛門口書共ニ取次数右衛門様へ指上申候

一 中川村四郎左衛門と乗兼村庄右衛門出入之事、数右衛門様へ御内意申上候へハ、先金津六右衛門殿へ参様子聞候様ニと被仰付候

一 中川村半兵衛方ハ金子貳分請取申候、是ハ去暮藤四郎様へ指上候金子不足之処、近日能州へ御越被成候ニ付、坂井郡与頭中ハ何も貳分ツ、出し候て、三両払方右之通ニ候

一 村々夜番之儀ニ付証文取候様ニと被仰付候而罷歸り候

一 矢地村用水所普請大方ニ仕、先水を上ケ□□け申候、重而御改を請可申由、舟寄ニ而数右衛門様御断申上罷歸り候

同廿一日

同廿二日

同廿三日

一 村々庄屋中呼寄候而火用心・盗人用心堅申付、夜番亭主番ニ仕候様ニと証文取申候

一 轟木村へ年内請合不足之事堅申渡候

一 矢地村靈順・さく・庄屋長百姓めしつれ参候様ニと、昨廿二日ニ数右衛門様ハ御配符被遣候ニ付、何れも召連舟寄参候得ハ、靈順手前段々御詮義被遊、さく持高之田畑下作之分靈順方ハ押へ為作不申事、去春出入相済申証文之面相違仕、其上下作之者ニ何角と

我ま、仕懸候ニ付、御せんきの上さく取分<sup>(符)</sup>之御高田畑共去春わけ分ケ申通さく方ハ何様ニも支配可仕候、田畑為荒申間敷候、出入之義ハさく方ハ指上候訴状返答・六右衛門口書之返答共ニ兩通返

答書、来月六日ニ可指上候と被仰付、右兩通訴状靈順ニ御渡し被成候

一 矢地村庄屋長百姓之内ニ而貳三人、来ル一日ニ福井本瑞寺へ靈順義被仰遣、本瑞寺ニ而詮義可仕との事ニ候ハ、靈順本瑞寺へ可被遣候由、若又本瑞寺ニ構無之との事ニ候ハ、舟寄御陣屋ニ而御詮義可被遊由、其節舟寄ハ本瑞寺へ御状可被遣由被仰渡候

一 御簾尾村市郎右衛門方ハ靈順ニかし銀之義ニ付訴状指上候由ニ而、是も靈順ニ返答被仰付候

一 御廻米御用ニ付舟寄ハ三国へ参候

同廿四日

一 今日何れも与頭中舟寄へ被召寄候御用ハ、去子之年皆済帳・同皆済目録書候様ニと案紙被遣候、自分義昨日委細承候而歸り候ニ付今日不参候、三国ニ罷有候

同廿五日

同廿六日

同廿七日

同廿八日

一 笹岡村庄屋長百姓呼寄、御廻米代銀之事申付候

一 矢地靈順右三通之返答書持参仕、何とそ下ニ而相済候様ニと申候得共、訴状之義直ニ御渡被成候上ハ直ニ返答書指上申様ニと申返

し候、次ニ靈順持高田畑村人拔シ候ニ付請作不仕候而迷惑仕候間、  
村人ニ請作仕候様ニ申渡し候様ニと申二付、自分持高さへ請  
主無之候而迷惑之由、然処さく分之高迄おさへ申事難心得候、然  
共村人方様子申聞村人之心次第ニ可仕と申渡し候

一同村善右衛門呼寄候而右之段申渡し候得ハ、村ニ而相談之上重而  
返事可申由申候

同廿九日

一 矢地村靈順義ニ付福居本瑞寺へ御陣屋の御状被遣、其返状之様子  
ニ依而御詮義可被成由被仰付候処、廿七日□□照嚴寺福居惠徳寺  
ニ参会仕候、内意を以靈順義物語仕候へハ、本瑞寺役人共上京仕  
不罷有候ニ付、御状被遣候共慥成御返事仕かたく候間、来月<sup>(迄)</sup>□□御  
待被下候様ニと惠徳寺被申ニ付其段御陣屋へ参申上候へハ、本瑞  
寺へ御状被遣候事御延引被成候、就夫靈順も段々誤り御詫言いた  
しくれ候様ニと申段御陣屋へ申上候へハ、書付返答為致候も為誤  
可申ためニ候へハ、とかく誤り申ニ付詫言之願状為致指上候様ニ  
と被仰付候

一 轟木村年内請合不足六両之内、三両ハ仙右衛門様御かり違候而当  
分御かし可被成由、三両ハ下関村与三兵衛ニ才覚いたし貸候様ニ  
□申談候

一去子御年貢金小物成度々此方へ相納候金子手形、不残村々取  
揃明日・明後日之内ニ舟寄へ御陣屋迄持参可有之、尤手形ニ金

高書付指越可被申候

一村庄や式本三本ニわかれ居申手形、銘々のそミ申村ハ其わけ書  
付可被申候、願不申候村ハ不苦候、以上

四月廿九日

神田喜兵衛印

与頭中

右之御廻状後山の参候ニ付布目ニ遣シ申候

四月晦日

一 右御廻状之通村々へ申遣御手形共大方取あつめ申候  
一 矢地村靈順参、いか様之証文ニ而も可仕候間御詫言いたしくれ候  
様ニと申候

五月朔日

一 高嶋藤四郎様今日能州へ御越被遊候付、壹本松茶屋何れも与頭中  
御見送りニ罷出、御いとま乞申罷歸り候  
一 御廻米納手形、三国河内屋迄村々庄屋共持参仕候様ニと数右衛門  
様被仰越候ニ付、明後三日ニ手形持三国へ参候様ニと村々へ申  
遣し候

一 壹本松茶屋共願申候ハ、十楽村之内をはつれ壹本松茶屋村壹村ニ  
罷成申度と願候ニ付、先年ハ壹村ニ而無之候へハ、何様ニ御訴訟  
申候共壹村ニハ難成由色々申聞、彦兵衛・善兵衛・武兵衛共段々  
申聞候得共、是非共と申ニ付、然ハ訴状を以可申上候、取次可申

由申渡し候

同二日

一 轟木村年内請合不足六両有之二付、春中々詮儀いたし候へ共指上不申候処、今度喜兵衛様御仕切御さん用ニ付仙右衛門様被仰聞候ハ、去秋色々訴訟ニ而大分御免も引申候処、年内少々入方帳面ニ出し候ハ、当秋御せんき被遊其上御免も上り可申候間、何様之才覚も仕請合不足之分上納仕候様ニと被仰候付、様々吟味仕候へ共上納可仕立無之候ニ付、右之内仙右衛門様を三両御かりちかへ可被下由、式両ハ下関村与三兵衛七月六日切<sup>(取力)</sup>□かへ候ニ付、轟木村助右衛門ニ相渡し申候

一 笹岡村御廻米代金大分不足候故、三国河内屋を御米入不申候間、庄屋長百姓めしつれ三国迄参候様ニと数右衛門様を御手かミ被遣候へ共、今日笹岡村宗左衛門金拾八両余持参仕、さいせん八両相渡し相残分拾兩余ニ候へハ、先是ニ而米入候様ニと申遣し候、我等儀ハ明日舟寄ニ参それ直ニ三国へ可参由御返事申上候、以上

五月三日

一 舟寄へ何れも与頭中同心ニ而参候而、当春奉願候夫食之訴訟相叶不申候故ハ、御口米之内ニ而少々御かし被下候様ニと申上候へハ、御相談之上御かし可被遊候間、当日ニいつれも参候□と被仰付候、次ニ喜兵衛様江戸御立之義、急ニ御立候へハ村々手支申義御

座候間、当日頃御立被成候様ニと申上候、年内を当春迄上納仕候御手形村々を不残取集舟寄へ持参候へハ、御口銀米之御手形・拝借返納金之御手形ハ去年通御手形其ま、ニ而、其外御年貢方之御手形御書かへ被成候而壹枚手形ニ而請取申候  
一 小木仙右衛門様を金三両かり候て、轟木村へかし候て御年貢去暮請合不足ニ指上させ申候  
一 御廻米之義ニ付数右衛門様を村々庄屋共三国被召寄候ニ付、与頭中も舟寄を直ニ三国へ参候

五月四日

一 村々庄屋三国へ参候ニ付、御廻米詮儀仕当十五日切ニ請合せ申候、并笹岡市右衛門・清右衛門御廻米代銀十五日ニ慥ニ為請合申候

同五日

同六日

一 子御年貢未進金当月十日切ニ未進金高を三分壹取立可被指上候、此旨村々江廻状其方達を被相触、無滞相納候様ニ可被申付候、為其如此ニ候、以上

五月四日

小木仙右衛門 印

与頭中

此書付廻り納る此方へ相返し可被申候

右之通村々へ申触候、同十日ニ右御廻状返進

同七日

一三国を罷歸り候

同八日

同九日

一与下村々庄屋中呼候而、右被仰付候未進金早々取立、御廻米不足之村ハ先御廻米ニ相立可被申候

一右取集申候子御年貢上納金手形、右預り申金高無相違書かへ、手形ニ而返し申候

一子御年貢御勘定仕上ケ目録帳并皆済状ニ村々庄屋長百姓判形取申候

子年江料米請取証文帳

一米三石六升七合七勺

下関村

一米八斗貳升八勺

轟木村

一米五斗九合六勺

新用村

一米七斗壹合壹勺

馬場村

一米壹石壹斗四合

谷畠村

一米八斗五合

東善寺村

右江料米請取申証文帳ニ判形仕候而後山村へ遣し申候、兵庫を参候

一矢地靈順出入御詫言願状指上候を請取置申候

同十日

一子御年貢皆済仕上目録帳并皆済目録状貳拾壹通御陣屋へ指上申候  
一喜兵衛様御支配中何之申分出入無之との村々連判証文指上申候  
一靈順御詫言状御陣屋へ御披露申上候而、重而数右衛門様へ様子申上候様ニと右書付ハ此方ニ置候

請取申御扶持米之事

一米貳俵

舟寄村

善右衛門

一米貳俵

前谷村

二郎左衛門

一米貳俵

東長田村

源左衛門

一米貳俵

下兵庫村

武兵衛

一米貳俵

後山村

茂右衛門

一米貳俵

布目村

彦兵衛

米合拾貳俵

此石四石貳斗

但江戸表御定三斗五升入

此代金貳両壹分銀拾貳匁八分四厘

但越前子之御直段壹石二付三拾五匁貳分積

右者從殿様拙者共御扶持米被為下置難有拝領仕候、右之御米請取申候ニ付一札指上申候、仍如件

舟寄村

善右衛門 印

前谷村

二郎左衛門 印

東長田村

源左衛門 印

元禄九年子十二月

神田喜兵衛殿

下兵庫村  
武兵衛印  
後山村  
茂右衛門印  
布目村  
彦兵衛印

右之御扶持米去子十二月十日ニ請取可申処、我々取込罷有候ニ付御断を申上預ケ置候処、今度御仕切勘定被成候ニ付御渡し被下候ニ付、右之通請取手形指上申候

預り申金子之事

一合金式百両

此人数七千〇百六拾三人

此割

金三拾八両

布目組

金拾六両壹分

東長田組

金式拾七両式分

前谷組

金式拾六両式分

下兵庫組

金式拾両三分

舟寄組

金式拾六両三分

後山組

金七両

光明寺組

金拾式両式分

森川組

金拾両

伊知地組

金拾四両三分

白山麓

右ハ当春夫食御拝借願上候へ共相叶不申候ニ付、殿様御口米金之内式百両御貸被下候ニ付拝借仕、坂井郡之分六人之与頭共連判ニ

而仮り預り手形指上、村々へ金子相渡し庄屋長百生証文帳指上、右預りと引かへ可申筈ニ候

丑年江戸御役人様

町御奉行

(能勢頼相)  
能勢出雲守様  
(川口宗恒)  
川口摂津守様

寺社御奉行

(戸田忠真)  
戸田能登守様  
(永井直敬)  
永井伊賀守様  
(井上正岑)  
井上大和守様  
(松平重榮)  
松平志摩守様

御金奉行

(永井信晟)  
永井内蔵之介様  
(大村与右衛門貞義)  
大村弥右衛門様  
(諸星盛明)  
諸星清左衛門様  
(小泉義真)  
小泉市太夫様

地方

(松平重良・勘定奉行)  
松平美濃守様  
(稻生正照・勘定奉行)  
稻生下野守様  
(井戸良弘・勘定奉行)  
井戸対馬守様  
(荻原重秀・勘定奉行)  
荻原近江守様

同御吟味

(諸星忠直)  
諸星伝左衛門様

同御与頭

(桜井政蕃)  
桜井七右衛門様  
(正木弘信)  
正木藤右衛門様  
(細井政実)  
細井助九郎様  
(窪嶋長敬)  
窪嶋市郎兵衛様  
(杉岡能連)  
杉岡弥太郎様

一子之御年貢指引帳・同未進帳・夫食御貸し証文之案紙請取、舟寄  
を罷歸り候

同十一日

一 笹岡村市右衛門・清右衛門御廻米代金之内式兩壺分銀拾匁、河内屋二郎右衛門代吉兵衛ニ渡候へ共、二郎右衛門請取不申と被申候段迷惑之由訴状持参いたし候得共、庄屋宗右衛門為取次候様ニと申返し申候

五月十二日

同十三日

一 村々庄屋長百姓呼寄、当春願上候夫食御拝借相叶不申候ニ付、御口米金之内御貸被下候段々申渡し御貸金相渡し申候、其外子御年貢指引帳・同未進帳ニ判形取申候間、子御未進金高々三ヶ壺村々ニ而取立候様ニと申渡し、御廻米代銀十五日切ニ相済候様ニと申候、次ニ水入村々断有之ニ付、田畑町反帳取申候

同十四日

一 右御貸金証文帳壺冊、子御年貢指引帳壺冊、同未進帳壺冊、今度之洪水ニ而田畑水入帳壺冊、当閏二月ニ夫食願之神文壺通、今日為持小木仙右衛門様へ指上申候  
一 十楽村庄屋中を以壺本松茶屋共ニ御訴訟之事有之候ハ、書付を以可申上候、取次可申由申遣し候

同十五日

一 壺本松茶屋市右衛門・市郎兵衛参候ニ付、右申通十楽村地内ニ請地ニ而罷有候処、壺本松茶屋村と壺村ニハ成かたき由申聞候得共承引不仕候ニ付、然ハ訴訟を以可申上候、何様ニも取次可申由申聞候

一 信州之内ニ論所之出入有之ニ付、其為御檢使と殿様七月中ニ信濃御越之由、舟寄善右伝言後山へ申来り候

一 三国勝授寺殿藏經之奉加帳後山へ参候

一 布目彦兵衛方へ被申越候ハ、喜兵衛様廿一日ニ御立可被成由ニ候間、内々之金子十八日切ニ相済申様ニと委細被申越候ニ付村々申ふれ候、彦兵衛状後山へ遣し申候

五月十六日

一 御廻米御手形改被成候ニ付、村々庄屋中入手形今日三国へ持参候様ニと申触候間、自分も三国へ参候

同十七日

一 笹岡村御廻米支申ニ付、庄屋長百姓・五人頭共ニ三国被召寄、段々御詮義之上十九日切ニ相済可申由堅請合申ニ付、其通ニ被成候

同十八日

一 三国ニ罷有候

同十九日

一 福居殿様御帰城之御祝ニ金津三田村六右衛門殿・松田弥兵衛殿へ参候而罷歸り候

同廿日

一 谷畠村庄屋長百姓、田畑水入ニ立毛痛申候、罷出見分いたしくれ候様ニと断二候

一 井向村応観寺の富札式百枚、与下村々庄屋中へ扇子壱箱宛進物預り置申候

一 明廿一日ニ神田喜兵衛様江戸へ御歸り被遊候ニ付、御見送りニ何れも与頭中舟寄へ参候

一 銀式匁五厘矢地村・銀六分北野村・銀五分田中村・銀三匁菅野村、  
ノ銀六匁壹分五厘、是ハ子年御伏かへ被下候入樋・伏樋等之古木  
年内入札被仰付、方々へ入札仕候処落札へ被仰付候ニ付、代銀取  
立喜兵衛様へ指上申候、則御手形有

一 坂井郡・大野郡・吉田郡立合ニ而金拾壱両遣申ニ付、其仮り割として金壱両自分へ出し申候

同廿一日

一 喜兵衛様舟寄御出立、府中若狭屋内之介方ニ御泊り、与頭中も不残府中迄参候へハ夕・朝御料理喜兵衛様へ被下候

同廿二日

一 喜兵衛様府中の御立被成候ニ付御暇乞申歸り候、鯖江藤介様へ御見廻申上候、則金壱分右三郡の肴代指上申候

一 金式分福井法性院へ渡ス、但戌・亥兩年之御初尾銀之内、則宝性院泊り申候

五月廿三日

一 舟寄ニ而助左衛門様御陣屋へ御移り、喜兵衛様御立之御悦申上罷歸り候

一 子御年貢之内未進金半分当月中ニ指上候様ニと被仰付候  
一 助左衛門様被仰渡候ハ、面々与下村々上中下之内改書付指上候様  
ニと与頭中へ被仰付候

一 筆申触候、去子之御年貢納下り之分追々上納可致候、委細之義ハ組頭共へ可申渡候、尤油断有間敷候、以上

五月廿三日

洪垂助左衛門 印

前谷組村々

同廿四日

一 笹岡村五郎兵衛切高仕候ニ付吟味仕候処、切高仕候ニ付何之申分出入無之由申ニ付、庄屋長百姓相談次第ニ為致候

五月廿五日

一村々庄屋長百姓呼寄候而、子御未進金高の半分当月晦日切ニ上納可申由証文判形取申候、其内金高不足有之候共早々御金庄屋中御陣屋へ持参仕、助左衛門様御目見得被致候様ニと申付候、則介左衛門様御廻状を見せ判形為致候

一馬場村庄右衛門方へ上番村市藏と申者、丑・刁両年切米壹石九斗ニ而召抱、請人ハ同村十兵衛・半右衛門請人ニ而証文取置候処、右之市藏当四月欠落仕江戸へ参候ニ付、請人共方へ相断候へハ、江戸へ遣し呼返シ候か、さなく候ハ、切米代金取寄相渡し可申候間、其内相待くれ候様ニと申ニ付、延引いたし候処于今不埒事共を申、一日くゝと日延しニ仕候由当十六日ニ庄右衛門方へ訴申ニ付、右之段々野中村与頭五左衛門方へ十六日ニ手紙遣し候処、右請人共せんき仕候由ニ而于今返事無之由、庄右衛門申来候  
一十楽村長右衛門ニ茶屋共何角と申候間、諸事先年之通ニ可仕候、其上庄屋中方へ茶屋共呼寄、七右衛門のハ先年之通ニ為致候間、其上ニ出入之事有之候ハ、訴訟仕候様ニ可申渡由申付候

|      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 一拾五人 | 菅野村  | 一拾五人 | 矢地村  |
| 一拾人  | 宮谷村  | 一七人  | 青野木  |
| 一拾人  | 高つか村 | 一三人  | 西方寺村 |
| 一拾人  | 田中村  | 一拾人  | 中川村  |
| 一拾人  | 十楽村  | 一七人  | 清王村  |
| 一拾五人 | 笹岡村  | 一五人  | 北野村  |
| 一五人  | 北村   | 一五人  | 前谷村  |

|      |     |      |         |
|------|-----|------|---------|
| 一五人  | 轟木村 | 一五人  | 新用村     |
| 一五人  | 馬場村 | 一五人  | 東善寺村    |
| 一七人  | 谷畠村 | 一貳拾人 | 下関村     |
| 一拾五人 | 山室村 | 一三拾人 | 土屋二郎左衛門 |

合貳百拾九人 此錢壹貫七百五拾貳文  
但壹人ニ八文ツ、  
右ハ三国勝授寺大藏經万人講奉加ニ付申分為後覺書写候而、帳ハ布目彦兵衛方へ遣し申し候

同廿六日

一笹岡村五郎兵衛持高之内八石余、山共二代金拾貳両、丑辰迄四年賦質物ニ市郎兵衛ニ相渡し申証文ニ御裏判奉願候ニ付、小木仙右衛門様へ手紙を指添遣し申候

一仙右衛門様御代りニ神田政右衛門様三国へ御出ニ付、為御見廻と三国へ参候

同廿七日

一与頭中不残三国ニ而参会いたし、村改之義面々与頭中存寄之通書付出し候て、重而参会之節吟味仕由申合候  
一高嶋藤四郎様へ当廿四日之日付ニ而後山善兵衛・自分方へ之書状参候

同廿八日

同廿九日

六月朔日

同二日

一 今日三国を罷歸り候

同三日

一 当八日二下兵庫村大善寺ニ而宗旨寺判取申ニ付村々申触候、并晦日切請合金不足村々早々相濟候様ニと申触候

一 明四日に相談之事有之候間、寄合申様ニと彦兵衛方を廻状参候ニ付、即刻後山へ遣し申候

一 上乘前谷武右衛門・舟津次右衛門今日江戸を罷歸り候、宮谷義太夫方を五月廿日江戸出し之書状請取候

同四日

一 何れも与頭中三国へ寄合、木内八九郎様を被遣候御状之面を以段々相談いたし、三国二宿り罷有候、御状五月十五日日付也

六月五日

(大宮茂富・福井藩金津奉行)

一金津彦右衛門様へ御機嫌窺ニ罷越、夫より舟寄御陣屋へ参、殿様

信州へ御検使ニ御越被遊候ニ付、御目見得御首尾能被為成、殊ニ

黄金式枚御時服ニ御拝借被遊候ニ付 御悦申上候

一 御月番仙右衛門様へ参、御未進御取立之義先月晦日切之割付金当十日ニ取切候而、相残分ハ当月切二度ニ割付相濟させ申様ニと被仰付候

一 内々御訴訟申上候夫米之義、奉願候段々御内意仙右衛門様へ申上候、委細当十日時分書付を以可申上様ニ申上候而罷歸り候

覚

金銀吹直シニ付、古金銀者新金銀と称引替可申候、御料ハ御代官、私領ハ地頭を申付置、遠国迄古金銀不残様ニ引替させ可申候、古金銀之義来寅三月迄者只今之通新金銀と一樣ニ用之、其以後ハ古金銀通用相止之、新金銀斗可用之間可存其旨候、若滯義有之者金銀吹直シ之場所迄可申出候、以上

丑四月日

如斯御書付出候ニ付写遣候間可被得其意候、面々御代官所中へも此旨可被相触候、此廻状留方を美濃守方へ可被相返候、以上

四月廿九日

(諸星忠直・勘定吟味役)  
諸星伝左衛門

(松平重良・勘定奉行)  
松平美濃守

(萩原重秀・勘定奉行)  
萩原近江守

(井戸良弘・勘定奉行)  
井戸対馬守

(稲生正照・勘定奉行)  
稲生下野守

右之通御触出候間可被得其意候、此廻状順々可相廻者也

五月

(六倉・舟寄代官)  
六 与兵衛

右御廻状之趣村中大小之百姓読聞、村下二庄屋判形いたし、村

次無遅々溜り村の陣屋迄可相返候、以上

五月廿四日

洪垂助左衛門印

右之御廻状村々廻り申候

一御年貢未進之義、仙右衛門様を御廻状被遣候二付後山村を参候、此方二留り有

同七日

一今日母妙忍依為五十年忌二清左衛門と中直り申様二との義二付、大文字屋源介殿・布目彦兵衛殿・舟寄善右衛門殿・後山茂右衛門殿・菅野十右衛門殿・中川半兵衛殿・下番道休老・森平太左衛門殿・加州打越勝光寺之御老僧・照嚴寺御名代西善寺、右之衆中一昨五日を御越被成色々御噺被成候二付、五年以前西四月二伝右衛門祖秀栄を被下置候除居屋敷を清左衛門理不尽二取被申二付、余り不届きと存候節自分方へも何角我かま、仕懸ケ被申二付、其時分御公儀江御訴訟申上候へハ、与頭中御噺□而出入ハ相済候得共中ハ直り不申、就夫自分方へ之不届ハ山々候得共、其節相済申義二候へハ今以其通二候、伝右衛門居屋敷秀栄を貰置候義ハ、勝光寺老僧・源介殿ハ同孫之事二候へハ、此屋敷之事可為御存知候間、伝右衛門屋敷二而無之儘成証拠御存知二候ハ、其段伝右衛門自分二も可被仰聞候、若又清左衛門取被申候事無理二候ハ、右之屋敷被返候様二御異見被成被下候様二と勝光寺老僧・源介殿其外之衆中御申候ハ、其儀ハ今更不及申上、清左衛門無法之事二候故

自分達而訛言申義二候、とかく此上ハ万事を抛、妙忍五年忌<sup>(マ)</sup>と申義もとつき堪忍いたし候様二色々御異見二付而、ともかくも何れへ任せ可申由談候、依之何れも相談之上二郎左衛門家ハ妙忍落命之所二候へハ、先清左衛門、二郎左衛門方之仏前二参、妙忍位牌を拜、次二二郎左衛門、清左衛門へ参中直りをも仕可然様被申聞二付、自分同心仕二付、其段清左衛門方へ老僧・源介殿御兩人達而被仰聞候由二候得共、清左衛門先立自分方へ参候而妙忍位牌を拜不申、先二自分清左衛門方へ参候様二と望之由二候へ共、今度之中直り妙忍五十年忌と申義二もとつき中直り申義二候へハ、妙忍落命之家へ参候の外之事ハ有間敷候、此上二何と取繕可申様も無之候由噺衆中御相談二而、此噺破れ申候二付何れも退散被致候一十楽村之内沓本松茶屋共方へ、十楽村七右衛門方先年を下シ置申畑、当春取上ケ為作不申候二付、茶屋之義十楽村を離れ別村二被仰付被下候様二と茶屋共願申二付、先年□別村二無之十楽村之内二候へハ願候共叶申間敷候条、今迄之通二而罷有候様二と段々申聞候得共、何角と申承引不仕候二付、左様二候ハ、願之通以書状可申上候、取次可申候、扱七右衛門二申渡し候ハ、茶屋共願之義ハいか様二申候共、先年を下シ来り候畑之義ハ無相違跡々之通下シ申様二と申聞候二付、庄屋共方へ茶屋共呼寄候而、先年二不相替畑之作り可申候、其外不寄何跡々之通二仕候様二と申渡し候得共、右之畑作り申間敷由申二付断二参候二付、茶屋市右衛門・市郎兵衛呼寄、畑作り申様二と段々申聞候得共請作仕間敷由申二付、

其義ニ候ハ、面々勝手次第ニ可仕候、次ニ訴訟之事候ハ、以書付を可申上候、早々取次可申由申聞候ヘハ、只今時分商事ニ取懸り罷有候、透を見合書付指上可申由申二付、是も面々勝手次第ニ仕候様ニと申付候

六月八日

一 当郡与頭中不残下兵庫村大善寺江寄合、丑ノ年宗旨御改寺判相改取申候

同九日

一 右宗旨改寺判取申候

同十日

一 右同断

一 去夏訴訟仕候夫米之義、何之被仰渡も無之候ニ付仲間相談ニ而重而御訴訟指上申候、留書有、右之訴状舟寄善右衛門ニ為持御陣屋ヘ指上申候

一 去冬も当夏迄諸入用仮割いたし候

同十一日

一 兵庫村大善寺罷有候ヘハ、昨日善右衛門を以指上候書付之義ニ付、舟寄ヘ何れも参候様ニと下兵庫迄舟寄善右衛門方被申越候ニ付

何も参候ニ付、長田源左衛門方ヘ立寄相談候事御座候ニ付、源左衛門方ニ宿り申候

同十二日

一 長田村の舟寄ヘ参候而一昨日指上候訴状之義、何も相談之上布目村彦兵衛・前谷村二郎右衛門兩人江戸ヘ罷下り願之義申上候様ニと何も被申ニ付、請合申ニ付而当十七日ニ江戸ヘ出立可申由御陣屋ヘ段々申上罷歸り候

一 江戸十七日ニ参候ニ付、三国御番政右衛門様ヘ為御暇乞之并自分用事候而舟寄の直ニ三国ヘ参候、政右衛門様ヘ江戸ヘ参候段々申上候

同十三日

一 三国の今日罷歸り候

同十四日

一 与中庄屋長百姓呼寄、江戸ヘ参候ニ付段々申渡、子残金月切請合相残申候、并舟寄大わり之仮割与中指引かりわりいたし候

六月十五日

一 馬場庄右衛門願ニ付野中村五左衛門ヘ状遣し申候

同十六日

一金五両、貸主新屋惣兵衛、借主下関村庄屋長百姓

此質高三拾石丑十月切

自分添判いたし候

一馬場村庄右衛門家来上番村市藏江戸へ欠落仕候ニ付、其義ニ付野  
中小嶋五左衛門方へ昨日状遣し候へハ返事指越申ニ付、其返状庄  
右衛門ニ預ケ置申候

同十七日

一今朝江戸へ出立ニ付金津御屋敷江御暇乞ニ参、夫々直ニ発足いた  
し候

同十八日 江戸留主中

同十九日

一仙右衛門様へ御年貢金之御廻状参候

同廿日

一村々江御年貢金之配符出し申候

一仙右衛門様廿二日之日御越之由、為知のため配符出し申候

同廿一日

一仙右衛門様後山江御越被成候間我等後山参候

同廿二日

一仙右衛門様此方へ御越被成候間、組下へ配符出し村々庄屋中召寄  
御年貢金詮儀仕候、又村々へ御裏判願越申候

同廿三日

一金貳両 此書入山四ヶ所

矢地村

善右衛門

清兵衛  
助右衛門

此利壹割五歩 来ル十月切

借主新屋惣兵衛

此証文我等致奥判相渡申候

一仙右衛門様朝五ツ時分御立被成舟寄御帰被成候、人足之義者前谷  
村へ馬老疋、北村へ人足老人为出申候

一谷畠村之小百姓共召寄、御年貢金色々詮議仕候得共埒明不申候間  
先相返し、其々我等後山へ参、茂右衛門殿と致相談罷帰申候

同廿四日

一山室屋吉右衛門<sup>(盛)</sup>森金被致持参候

一十楽村老本松茶屋市右衛門・市郎右衛門参候而申候ハ、七右衛門  
畑之桑野木伐狩<sup>(刈)</sup>申事如何と申候へ共、我等存不申候間先罷帰候様  
ニと申、先相返し申候

一谷畠村平兵衛被参候而被申候ハ、昨日村中致詮議候へハ御兼少々<sup>(金)</sup>  
致才覚候間、仙右衛門様へ被仰上候事一両日御待被遊被下候様ニ

と被申候

同廿五日

一当廿三日二十楽七右衛門茶屋共二下シ木戸口大開畑、茶屋共作り  
不申候付桑下かり仕候へハ、茶屋共罷出七右衛門山刀をたくり申  
由、七右衛門断申来候

同廿六日

一舟寄善右衛門方の割銀越申候様ニと配符参候  
一轟木村助右衛門、仙右衛門様ニ借り申候銀子御急キ之事ニ候間、  
相済候様ニと申付相返し申候

同廿七日

一米式石三斗

矢地村  
九郎兵衛  
善右衛門

此書入田式反

借主新屋惣兵衛

我等奥判いたし相渡申候

同廿七日

一我等舟寄へ村々庄屋長百姓中召連罷出候へハ、助左衛門様被仰出  
候者、紀州様へ出候村々ハ山室村・新用村・馬場村・東善寺村・  
轟木村・下関村、此六ヶ村此高合三千式百石余出候由被仰渡候而、

我等夜ニ入罷帰候

同廿八日

一後山善兵衛被参候而、村絵図仲之丞様頼拵申候  
一江戸義太夫方の当月十七日状参着申候

一助左衛門様の夜入候而御配符参候間六ヶ村へ配符出し申候、又上  
関村次兵衛・西永田村太兵衛(長)笹谷村へ立合ニ罷出候様ニと申来候  
一山室村女共致参宮候ニ付十一人之手形願申候間、我等手形出し申  
候

同廿九日

一谷畠村御年貢金相立不申候ニ付、仙右衛門様御詮儀之上小百姓式  
人牢舎被仰付候

同晦日

七月朔日

同二日

一高五石本

矢地村  
伝兵衛  
助右衛門

此代米式石三斗

借主大和屋次兵衛

一高三石本

同村  
霊順

此代米壹石三斗

借主油屋久兵衛

右証文式通我等致奥判相渡申候

同三日

一 武右衛門を頼出村へ差越申候へ共、金六両請取武右衛門預り渡罷  
帰被申候、六両之内壹両ハ少悪敷候間相返し申候

同四日

一 我等舟寄へ参、北村上納金我等手前の金壹両壹歩銀七匁六分三厘  
御手形請取罷帰申候

同五日

一 菅野村女共五人御手形願候間、我等手形出し申候  
一 谷畠村平兵衛被参候而籠入御詫言いたしくれ候様ニと申候間、明  
日罷出御詫言可申候間帰り申候様ニと申候

同六日

一 谷畠村牢入御詫言我等罷出申候処ニ、兵庫村武兵衛殿・東永田村  
武右衛門殿も御出被成候間、つれたち仙右衛門様へ罷出牢舎御詫  
言申上候へとも、御聞入無御座候儘御暇乞申候へハ、其座ニ数右  
衛門様御座候而被仰候者、又今度下関村之吉右衛門・七右衛門罷  
出、我かまゝなる事を申、あまつさい与三兵衛（謀判）はうはんをいたし

組頭願之書付直ニ差上候間、先善右衛門ニ被預置候而重而御詮議  
可被成由御物語被遊候間我等委承罷在候内、数右衛門様御帰罷成  
候跡、仙右衛門様被仰候者、暫逗留いたし数右衛門様へ御詫言申  
候ハ、相済可申候由被仰候間、御請を申罷立善右衛門方へ参善右  
衛門と致相談、下関村之者色々様々詮議いたし候へハ、如何様と  
も御詫言被成被下候様ニと申候間、我等又数右衛門様へ参候へハ  
其座ニ武兵衛・武右衛門罷在候間、いづれも頼様々御詫言申上候  
へハ、善右衛門召連罷出候様ニと被仰候間、善右衛門と致同心罷  
出様々御詫言申上候へ共、御聞入被遊誤り証文御請取被成御返し  
被成候間、我等も御暇乞申夜入罷帰申候

同七日

一 矢地村武兵衛かり証文致奥判相渡申候

同八日

一 矢地村女共七人参宮御手形願候間、我等致奥判相渡申候  
一 我等後山へ参候へハ、善兵衛殿舟寄へ被参而舟寄の直ニ笹谷へ被  
参候間、我等印判善兵衛へ相渡し申候

同九日

同十日

同十一日

同十二日

当月一日之御状夜入舟寄を参着候

同十三日

一 我等舟寄へ参候節、後山へより申候へハ善兵衛殿被申候ハ、金子  
壹両式步被致持参候哉と被申候間、持参不申候由申候へハ、是非  
二 持参被申候様二と被申候間、壹両式步茂右衛門殿二借り舟寄へ  
持参申候、善右衛門殿二相渡申候

一 舟寄二而谷帛牢入仙右衛門様へ御託言申上、善兵衛殿と我等と上  
納金預り証文差上牢入出し申候而、夜二入罷帰申候

同十四日

同十五日

同十六日

同十七日

一 夜入候而茂右衛門殿を枝村御改之配符出候様と御状参候間、急配  
符出し申候

同十八日

一 茂右衛門殿此方へ御状被成、後山組下・我等組下一所二爰許召寄、  
枝村詮議いたし改申候

一 十楽村女共伊勢参宮之御手形願候間、女十式人之致奥判相渡し申  
候

同十九日

(松脱)

一 壹本茶屋市右衛門参候而、茶屋之儀十楽村之枝村二無御座候由申  
候間我等申候ハ、十楽之地之内二居申候へハ十楽之枝村極申候由  
申候共、是非十楽枝村二て無之候由申候間帳面縮り候間、後山へ  
参茂右衛門殿二委申候様二と、善休を差添茂右衛門殿方へ差越申  
候へハ茂右衛門殿被申候ハ、枝村なきならハ其通二いたし置帳面  
も此通二て差上可申由、茂右衛門殿を申被越候間其通二いたし置  
申候

同廿日

一 枝村帳面家来清右衛門二為持舟寄へ差越申候へハ、悪所候由二而  
清右衛門舟寄を直く二後山へ参、茂右衛門殿二其由申候へ者茂右  
衛門殿舟寄へ御越被成、委帳面二書写御帰被成候

同廿一日

一 茂右衛門殿舟寄を御帰被成帳面もかえり候間、又村々へ配符出し、  
明日印判持参被致候様二と申相廻し候

同廿二日

一 枝村帳面急申候由善兵衛を申来候間帳面舟寄へ差越申、庄屋中印  
判有之不申候村々ハ舟寄へ印判持参可有之由配符出し申候

同廿三日  
同廿四日  
一当月十日之御状江戸を今日参着候  
同廿五日  
同廿六日  
同廿七日  
一武右衛門を福居へ出村甚右衛門方迄指越申候  
同廿八日  
同廿九日  
八月朔日  
同二日  
一青山藤太夫様方へ御悔二式十め懸蠟燭五挺為持、新兵衛を差越申候  
同三日  
一清右衛門を出村甚右衛門方へ催促二差越申候へとも相済不申候  
同四日

一 麻 木 簾 六 十 五 枚  
但長袴間・高五尺五寸、六本懸、本あひ  
両方五寸ツ、置、中本九寸ツ、  
内  
四枚 北野村  
五枚 北村  
九枚 中川村  
六枚 田中村  
四枚 笹岡村  
九枚 矢地村  
四枚 菅野村  
四枚 宮谷村  
四枚 青野木村  
壺枚 西方寺村  
九枚 高塚村  
六枚 谷畠村  
一麻木三束三尺縄二而 同村  
一小竹七拾五本 式寸五步廻り  
内  
式十本 笹岡村  
式十本 十楽村  
式十本 清王村  
十五本 前谷村

一 杭木九本 長壹丈・末口壹寸五歩

内

三本

菅野村

三本

宮谷村

三本

青野木村

右者御陣屋ゆき垣其外牢屋共割付諸色、当八日迄ニ御陣屋迄持参いたし候様ニ御申付可被成候、尤前書ニ断書仕候通

(二丁ほど欠損)

八月十二日

一 江戸を帰宅いたし候ニ付、下兵庫茂兵衛・東長田源左衛門方へハ布目彦兵衛を申遣し、後山茂右衛門方へハ自分方を申遣し、何れも明十三日舟寄へ被遣候様ニと申遣し候

同十三日

一 何れも与頭中舟寄ニ而参会いたし、同道ニ而御陣屋へ参御役人様御寄合ニ而江戸ニ而之段々不残申上、御陣屋を罷立、江戸を御言伝被成候御状其外色々方々へ不残相渡し申候

一 高嶋太次兵衛様・いつみや長右衛門、其外御侍中を福居方々へ御言伝被成候御状、其外諸色共舟寄を遣し申様ニと善右衛門ニ相渡し申候、右何も江戸ニ而預り候注文ニ引合相届申候

一 御訴訟之義内談仕候間、近日何方迄成共被出候様ニと、大牧豊左

衛門・野中五左衛門・米納津清左衛門三人方へ兵庫武兵衛を申越候様ニと申合何れも罷歸り候

同十四日

一 与下村々庄屋中呼寄候而江戸ニ而之段々申聞候、其外方々へことつかり申書状共相届候

同十五日

一本庄を布目・三国へ参申候

同十六日

一 御用之事有之候間明十七日ニ御陣屋迄参候様ニと、助左衛門様を御配符被遣候を三国ニ而見申候

一 上関次兵衛・西長田太兵衛三国へ被参、主税様御役人衆を御料ニ成拾壹年之間之御免付書上候様ニと被仰付候、如何可仕候哉相談ニ被参候、布目彦兵衛・自分共ニ申候ハ不残有躰ニ書上候様ニと相談申候

同十七日

一 布目彦兵衛同道ニ而三国を直ニ舟寄へ参候得ハ、与頭中不残参会、御陣屋ニ而被仰渡候ハ、殿様十六・七日ニ江戸御発駕ニ候間、御迎ニ罷出候事無用之由被仰越候由被仰渡候

一与頭中相談いたし候ハ、殿様御着之前ニ舟寄善右衛門・兵庫茂兵衛、今庄・府中辺迄可参候、相残者共ハ舟橋辺迄可参候、近所村之庄屋ハ横越辺迄罷出可申由申合候、彦兵衛・自分ハ舟寄直ニ後山へ参候而泊り申候

八月十八日

一彦兵衛と同道ニ而後山を宿へ罷歸り候、明十九日ニ石田方之与頭中三国麦屋太兵衛方迄出可申由被申越候付、可罷出由何れも申合候

同十九日

一彦兵衛と同道ニ而金津三田村六右衛門殿へ参、江戸へ罷歸り候由申上、夫を三国へ参候

一何れも与頭中并石田方三人之与頭中三国ニ而参会、江戸ニ而之段々物語いたし候、(馬場・石田代官)源兵衛様さへ御合点ニ候へハ御殿様へも被仰達可被下思召ニ候間、何とぞ相談被致候様ニと申候へハ、石田方之衆も早々石田へ参御訴訟申上、重而様子を為知可申由申合候

同廿日

同廿一日

同廿二日

同廿三日

一此間三国ニ而方々指計算用等仕、今日宿へ罷歸り候、壹本松茶屋共訴訟持参候付請取置申候

同廿四日

同廿五日

一中川四郎左衛門と乗兼庄右衛門と出入之瓜生村山を、庄右衛門無断もかり取申由四郎左衛門方へ申出候付、金津六右衛門殿へ参出入之处双方へ手かけ申義いか、候間、出入落着迄双方へ手指不仕様可被仰付哉と段々申達候へハ、成ほと手指不申候様ニ庄右衛門ニ可申付由ニ而罷歸り候

同廿六日

一御陣屋御用之由人足三人善右衛門へ被申越候ニ付、壹人矢地村・式人菅野村へ申付候而遣申候

同廿七日

一御代官様為御迎善右衛門・武兵衛今日府中へ被参候

同廿八日

一御代官様江戸へ明日御上着被遊由ニ候故、為御迎之舟寄へ今日罷越、何れも中ヶ間中と御陣屋へ罷出候、則舟寄ニ逗留

同廿九日

一 於御陣屋助左衛門様被仰渡候ハ、与頭中式三人宛組合候而其与下  
村々当立毛見分いたし、壺与切二而ハ去年之御取ケ米を本ニ立置、  
村々二而ハ立毛見分之通取ケ之上ケ下ケをいたし、去年之取ケニ  
合申様ニ可仕候、夫をふまへニ被成御取ケ付可被成由被仰候、彦  
兵衛・自分兩人ニ被仰聞、此旨与頭中へ可申聞由二候、右之通何  
もへ申入候

同晦日

一 今日舟橋迄罷出候得共、無御着候ニ付而舟寄迄罷歸り候

九月朔日

一 御代官様今日御着之由今庄へ申越候ニ付、郡中村々庄屋長百姓ハ  
長崎迄罷出候、与頭中ハ舟橋迄罷出候処御着、御目見得仕候  
一 五左衛門様へ御状被遣候趣ハ今度御供二而ハ無之候、御約束之物  
調越候様ニと被仰越候、八月十六日

同二日

一 御検見御廻り付仕指上申候  
一 御検見之節跡々之通下々ニ馳走ケ間敷事仕間敷候由、茂右衛門・  
彦兵衛ニ御直ニ被仰渡、其趣何れも承届候  
一 今日舟寄へ罷歸り候

一 当五日時分へ武兵衛・彦兵衛・自分三人組合、立毛見分ニ罷出可  
申由申合候

同三日

一 小木仙右衛門様へ御手紙ニ而被仰越候ハ、当御検見廻付御披見ニ  
入候処、前谷村へ布目村へ御越村数多候間、十楽照嚴寺ニ御泊り  
可被遊由二候間、照嚴寺指合も有之間敷候哉聞届申越候様ニと被  
仰越候ニ付、十楽村庄屋中へ申渡し、照嚴寺様子聞届候而、早々  
此方へ被申越候様ニと申渡し候

一 清王村・十楽村・富谷村・菅野村庄屋長百姓中、当立毛内検見仕  
くれ候様ニと願被申候

九月四日

一 清王照嚴寺ニ御検見之節御一宿可被遊由、若<sup>(其)</sup>節指合も有之間敷  
候哉と相尋候処照嚴寺殿へ被仰越候ハ、妹之祝義当十五日へ十七  
日迄二仕候間、其内之日限二候ハ、先様へ断を申指延可申候哉と  
御申越被成候

一 笹岡村山之内上野平林山、彦三郎・武兵衛境論有之由彦三郎最前  
へ度々申来候ニ付、宗左衛門・武兵衛呼寄様子吟味仕候処宗左衛  
門申候ハ、彦三郎申分段々証拠有之二付、庄屋長百姓立合様子聞  
届候而、何れも右之山へ参境相立候得とも武兵衛承引不仕候と申  
二付、様子せんきの上村中境目之通埒明候様ニと武兵衛ニ申聞候

へハ、其通ニ仕相済可申由納得いたし罷帰候

一 西方寺村十右衛門・市郎右衛門参候而断申候ハ、同村之内太郎兵衛持山太平通と申山、清王村之権兵衛方へ十年季質物ニ入申候山を、十楽五十郎かり取申ニ付、様々断申候得共五十郎承引不仕候付、断申由ニ候故はいふ遣し申候

西方寺村太兵衛方へ清王権兵衛方へ十年季之質物ニ入置申候太平通と申山を、其方へかり取被申ニ付、色々断申候得共聞届無之候由、西方寺村十右衛門・市郎右衛門断ニ参候、様子ハ聞請不申候へとも、とかく山をかり被申義ハ少之内延引可有候、せんきの上其方可苟取山ニ相究候ハ、何様ニもからせ可申候間、吟味仕候迄ハかり取被申間敷候、為其申遣候、ケ様ニ申遣候処山かり取被申候ハ、重而申わけ有間敷候、以上

九月四日

土屋二郎左衛門

十楽村五十郎殿

右之はいふ五十郎方へ返し申候

同五日

一 殿様御検見之節清王照嚴寺ニ御一宿可被遊由、小木仙右衛門様へ被仰越候ニ付、清王照嚴寺方相尋候へハ、十四日へ十七日迄ハ自分ニ指合候由断有之候ニ付、其段仙右衛門様権右衛門を遣し申上候

一 御廻米江戸納才料并上乘道中入用給金相定候通御尋ニ付、判形仕

御陣屋へ指上候、写別紙ニ有

同六日

一 西方寺村太郎兵衛方へ入申質山之義ニ付、五十郎参候ニ付段々吟味仕候処、下ニ而和談仕相済可申由、西方寺村十右衛門・十楽村五十郎申ニ付、何れも罷帰り候

一 壹本松茶屋市右衛門・市太夫出入之義ニ付参候ニ付、何とぞ下ニ而相済申事ニ候ハ、噺人を入和談為致可申と存候ニ付、色々申聞候得共扱ニ而和談可仕と不申候ニ付、只今迄何とぞ下ニ而相済シ為可申延引いたし、訴状も取次不申候得共、扱ニ而相済申間敷事ニ候ハ、明後日ニ書付取次可申由申渡し候

一 今日殿様安嶋浦へ御泊懸ケニ被為成候様子かハリ、安嶋へ不為成候由

同七日

一 壹本松茶屋共訴状之義、彦四郎・五十郎・七右衛門呼寄様吟味いたし候

十郷用水絵図之義ニ付御用之義有之候間、明八日右之絵図持参拙者方迄可被参候、以上

九月七日

洪垂助左衛門

前谷村与頭  
二郎左衛門殿

右之御配符村次ニ而参着

九月八日

一 十郷用水之絵図自分方ニ所持仕候ニ付、御陣屋へ持参仕候へハ、  
此絵図写し候て指上候様ニと被仰付候ニ付、当十二日ニ為持指上  
可申由申上候

一 横落堤番人之義去秋下兵庫ニ而被仰付候処、上番・中番・下番用  
へ不申候義、大連三郎左衛門も右三番之内ニ番人立申度様ニ当春  
書付出し申候、弥其通ニ候哉と御尋ニ付申上候ハ、三郎左衛門倅  
若輩者ニ御座候付、いか様ニ書付指上候も不奉存候、併指而三郎  
左衛門義何方ニ番人相立候共構ハ御座有間敷候、自然何角と構申  
候共、私異見仕かまわせ申間敷候、三郎左衛門是非共かまひ可申  
と於申二ハ、彦四郎二ハかまわせ申間敷由申上候

一 壹本松茶屋共指上候訴状、仙右衛門様へ取次指上候へハ、御取込  
ニ候間重而全義之上返答可被仰付由ニ而茶屋共帰候

一金壹両、是ハ飛驒賃、御陣屋へ度々御扣御渡し被成候付、壹与へ  
壹両ツ、あつめ候而御陣屋へ指上申由

一金壹分、是ハ殿様御着ニ付諸事入用ニ付壹与へ壹分ツ、あつめ申  
由、右壹両壹分之金子与頭善右衛門ニ渡申候、此金何もへ手形遣  
し不申候由ニ而手形取不申候、舟寄善兵衛家ニ而相渡し罷歸り候  
一 宮川五左衛門様へ八月十九日之状壹通、御詔物之書付共ニ参候

同九日

一 馬の鞍・小道具共ニ北村之人足ニ為持仙右衛門様へ遣し候得共、  
くら悪敷候由ニ而御返し被成候、能くら今日之内ニ為持遣し候様  
ニと藤介へ被申越候

同十日

一 馬のくら前谷弥五兵衛ニ為持舟寄へ遣し、小道具等相改、舟寄五  
兵衛ニ相渡し申由

一 内検見ニ谷畠村へ布目彦兵衛・下兵庫村武兵衛・自分出会候而、  
谷畠村立毛見候而金津三田村六右衛門殿へ立寄、夫へ菅野・矢地・  
田中・々川・北村・北野・前谷村迄見候而自分方ニ泊り、彦兵衛  
ハ菅野へ歸り申候、殿様安嶋へ被為成候ニ付右之通ニ候

同十一日

一 笹岡・宮谷・青野木・西方寺・高塚・清王・十楽・赤尾・牛山・  
国影・井江葭・横垣・重義・番田・田中々村・十楽・布目迄、武  
兵衛同道<sup>(二而)</sup>□□内検見いたし候

一 下兵庫武兵衛同道ニ而壹本松茶屋居屋敷・七右衛門下シ畑、乍序  
見申候

一 例年相触候通手代共検見之節、金・銀・米銭・衣類・其外何ニ  
而も音物等一切仕間敷候、勿論少も馳走ケ間敷義堅停止ニ申付  
候間、此旨急度可相守候、且又我等相廻り候節召連候家来共并  
手代・小者ニ至迄、右同事ニ可相心得候、若右之趣於相背ニハ

急度曲事ニ可申付候、万一家来・小者共之内かさつかましき申  
ニをめてハ、無遠慮与頭共方迄内意可申通候、此ふれ状披見之  
上、順々へ相廻し留り村へ可相返ス者也

九月九日

(六倉・舟寄代官)  
六与兵衛印

村々

右之御廻状村々へ廻り候得共写置申候

九月十六日

一十郷用水絵図笹岡村武兵衛ニ為持候而舟寄へ遣し申候  
一横落堤番人之義、大連三郎左衛門ニ申聞候へハ、何方ニ相立候共  
少も構無御座候由申候

一安嶋浦ニ殿様御逗留ニ付、与頭中同道ニ而御機嫌窺ニ参候

同十三日

一布目与下村々内検見いたし候

同十四日

一殿様安嶋へ御帰被遊候ニ付、彦兵衛障も明申ニ付、何れ三国太兵  
衛方へ寄合候而当立毛見分相談いたし候

同十五日

一右同断

同十六日

同十七日

一御役人助左衛門様・仙右衛門様・政右衛門様御出被成候而、後山  
ニ御泊り被成候

一殿様大野郡御検見ニ御出被遊候由

同十八日

一右御三人様後山へ御出被成、清滝村・鎌谷・梶・中川・二郎丸・  
北正田・南正田村・里竹田・前谷御検見被成、前谷村ニ御泊り被  
成候

一銀五匁弍分 御飯米代、塩噌・薪・油・野菜代ニ請取申候

一三田村六右衛門殿へ、殿様此辺御検見ニ何時分御廻り被成候哉と  
(直脱)様為知申様ニと御状被遣候ニ付、廿三日時分ニ而可有御座由申  
上候

同十九日

一右御三人様笹岡・北野・北村・田中・御簾尾・矢地・清間・伊井  
・菅野村十右衛門方ニ御泊り、諸事仕出し

一舟寄魚屋宗右衛門内室死去ニ付、殿様大野郡を直ニ後山へ御越も  
可有由ニ而、かい物ニ前谷武右衛門今日をふくいへ遣し候、人足  
ハ中川村へ遣し申候、但中川村人ハ廿日ニ日帰りニ遣ス

同廿日

一 右御三人様・菅野・宮谷・青野木・西方寺・高塚・清王・十楽  
赤尾村へ御こし被成候

一 前谷武右衛門ふくい罷歸り候

同廿一日

一 殿様大野郡を直ニ後山へ御越之由ニ而、人馬鳴鹿迄御迎ニ参候へとも、雨ふりニ而御越なく候

同廿二日

同廿三日

同廿四日

一 殿様大野郡(坂)関東嶋を後山村へ御越被遊候、女形谷村迄御迎ニ罷出候

一 森市右衛門殿・日下部沖之進殿(マ)へ江戸へ御越付、木内八九郎殿・神田喜兵衛殿・高嶋太次兵衛殿・宮川五左衛門殿其外何れも状遣し候

一 殿様後山村へ御越之由、三田村六右衛門殿へ書状を以申上候へハ御返事有

九月廿五日

一 雨天ニ而殿様後山村ニ御逗留被遊候

同廿六日

一 殿様後山を御出被遊、清滝・鎌谷・櫛・中川・次郎丸・北疋田・南疋田・里竹田・田中・北村・北野・笹岡・前谷村へ御泊り  
一 御宿諸入用銭貳百参拾四文御渡し、請取候

同廿七日

一 殿様御簾尾・矢地御通り、清間・伊井村御見廻、菅野・宮谷・青野木・西方寺・高塚(大宮茂富・福井藩金津奉行)を金津彦右衛門様へ御寄、夫を清王・十楽村を照嚴寺ニ御泊り少々之入用ハ清王・十楽を相勤申候

同廿八日

一 殿様赤尾村へ御移り被遊候、布目御泊り  
一 罷歸り候ニ付金津三田村六右衛門殿へ参候

同廿九日

一 助左衛門様・仙右衛門様・政右衛門様、今日を河和田を谷畠御検見之由、船寄善右衛門を被申越候ニ付、罷出候得共御越無之候

同晦日

十月朔日

一右御三人御検見遅候ニ付舟寄参候へハ上新庄ニ而御意得、明二日  
ニ谷畠村へ御越可有由被仰候ニ付、夫ハ殿様御機嫌窺ニ布目彦兵  
衛方へ参候

一筆令啓上候、弥御無事ニ御入候、且那御廻郷首尾能御仕廻被  
遊候半と珍重之御事ニ存候、此方皆々無事ニ罷有候、然ハ越前  
銀山向掘被仰付候ニ付、我等共并ニ高木平次右衛門相談ニ而、  
飯米出し申筈ニ申合、就夫此方ハ手遠ニ而米難相調候間、何  
れも四人之衆中番付之通御調、森川安右衛門方ハ指図次第安右  
衛門方へ御渡し可被下候、壹人前渡切代金御書付可被下候、其  
節此方ハ金子遣し可申候、右ハ陣屋仲ケ間衆中并郡中へ沙汰不  
被成、隱密被成御調可被下候、平次右と此方四人割合ニ而壹ケ  
月宛遣申候

壹番米三石

光明寺加兵衛殿

是ハ自休落着ハ安右衛門方へ早々御渡し可被下候、尤一度ニ  
渡し候事ハ無之、段々ニ手支不申候様ニ御渡し頼入候

貳番米三石

布目村彦兵衛殿

是ハ加兵衛渡し仕廻候次ニ、是又安右衛門方へ段々御渡し可  
被下候

三番米三石

前谷村二郎左衛門殿

是ハ彦兵衛渡し仕廻候次ニ、是又安右衛門方へ御渡し可被下  
候

四番米三石

後山村茂右衛門殿

是ハ二郎左衛門渡し仕廻候次ニ、是又安右衛門方へ御渡し可  
被下候

右之代金断次第、少も遅々仕義無「」間御調可給候、若又  
無心元難調事候ハ、早々可被仰遣候、世間広難成候故何茂へ無  
心申懸候、何共早々御返事頼入申候、以上

九月十六日

木内八九郎印

神田喜兵衛印

高嶋太次兵衛印

西川加兵衛様

近藤彦兵衛様

土屋二郎左衛門様

宗石茂右衛門様

右之御連状布目ハ参候ニ付後山へ遣し申候

同二日

一布目村ニ而殿様へ御目見得仕、夫ハ谷畠村へ参、右御三人様河間  
村ハ御越候ニ付谷畠村立毛御目ニ懸ケ、助左衛門様・仙右衛門様  
ハ田中々村へ御越御泊り、政右衛門様ハ舟寄村へ御泊り

一当免内付帳壹冊

一菅野村・谷畠村・中川村・高塚村・矢地村、此五ヶ村当作願帳  
五通指上申候

一中川村荒地引高・当年起シ返シ無之との証文壹通、仙右衛門様

へ指上候

十月三日

一何か私用ニ舟寄へ参候、其節八九郎殿<sup>(牡丹)</sup>御頼被成候<sup>(牡丹)</sup>はたんの義ニ付、三田村六右衛門殿へ立寄申候

同四日

一舟寄<sup>を</sup>罷歸り候

一宮川五左衛門殿<sup>を</sup>九月廿一日之御状布目<sup>を</sup>参候、木内八九郎殿<sup>(牡丹)</sup>丹之参所ハ京二条水野<sup>(水野勝直・京都町奉行)</sup>備前守殿与力田中文右衛門殿・石黒小藤太殿

殿

同五日

同六日

覚

一金八両貳分 谷畠村

一金拾六両壹分 高塚村

一金八両三分 清王村

一金拾四両 十楽村

一金壹両壹分 西方寺村

一金貳拾七両 青野木村

一金貳拾九両 宮谷村

一金三拾三両 菅野村

一金貳拾壹両貳分 矢地村

一金三拾七両 笹岡村

一金五両三分 北野村

一金八両貳分 北村

一金三拾貳両三分 中川村

一金拾六両貳分 田中村

一金四両三分 前谷村

ノ金貳百六拾四両貳分

右者当丑御年貢初納金、村々割付之通当月十日以前ニ可相納候、尤油断有間敷候、以上

十月五日

洪垂助左衛門印

右村々庄屋中

此廻状金下・村下ニ致印判、留村<sup>を</sup>可相返候

一下兵庫茂兵衛<sup>を</sup>被申越候ハ、殿様八日ニ御立被遊、番田・重義<sup>を</sup>

谷畠・上番・大味<sup>を</sup>下兵庫へ御通可被遊由ニ候間、上番村地内道

橋、谷畠<sup>を</sup>為作申様ニと被申越候ニ付、其段谷畠村へ申遣し候

一福居宝性院<sup>を</sup>御札貳拾通、与下庄屋<sup>を</sup>人ニ壹通宛之由預り申候、

宝性院泊り被申候

同七日

一殿様安嶋へ被為成、村々不及御検見舟寄へ直ニ可被為入由、彦兵

衛方を被申越候、其状後山へ遣し申候

同八日

一谷畠村かり不申候田水込二成申由、平兵衛断ニ参候

同九日

(石田代官)

(古郡年明・鱒江代官)

一明十日ニ馬場源兵衛様・古郡文右衛門様舟寄へ御越可被遊由ニ而、殿様今日安嶋を舟寄御歸りニ付、与頭共不残舟寄へ参候而、殿様ニ御迎ニ罷出御目見得仕候

一御三方様御寄合之節、夫米御訴之義御相談被遊可被下由内々及承候ニ付、当夏中江戸ニ而指上候訴状写助左衛門様へ指上、御取上ケ被下候様ニと願申上候

一谷畠村立毛水込二成、かり上ケ申事難成由訴状指上候ニ付、政右衛門様迄御取次申上候

一前谷村清左衛門ニ御用候間御陣屋へ参候様ニと、助左衛門様を御配符被遣候

十月十日

一石田・鱒江御代官様方舟寄へ御越被遊候付、舟寄御下之与頭共高木三左衛門様迄罷出候而御訴訟之義申上候

一舟寄ニ相詰罷有候処、前谷村伊兵衛参候へハ、為御用親清左衛門被召寄候処不罷出候義不届之由、早々清左衛門被参候様ニと被仰

付候

(大宮茂富・福井藩金津奉行)

一大宮彦右衛門様を被遣候牡丹、八木忠兵衛へ段々申相渡候

同十一日

一与頭共不残殿様御前被召出、夫米訴訟之事御相談被遊候得共、源兵衛様少々支も有之由ニ而然と究不申候、又江戸ニ而御相談被遊可被下候、当初納金之事急度指上候様ニと被仰付候

同十二日

一壹本松茶屋共出入早速御聞被下候様ニと度々参候ニ付、御役人様方おひま入之節二候間相尋候様ニと申聞候得共、承引不仕候ニ付手紙を添仙右衛門様迄遣し申候

一当初納金、当夏御かし金、北村・笹岡・谷畠村去未進金、為詮儀村々庄屋長百姓中呼寄段々申渡し判形取申候

(松平吉品・福井藩主)

松平兵部太輔様金津へ御入ニ付、其村々不依男女彼地へ往来仕候者、兵部様御家中之衆中へ対し慮外仕間敷候、勿論御通り筋之村々道橋掃除無油断仕候様ニ与下之面々へ可被申触候、尤一両日中ニ相廻り可致見分候、右為御馳走我等義奉行被仰付、布目村彦兵衛方ニ相詰罷有候条如斯二候、以上

十月十二日

手嶋新之丞印

与頭中

村次ニ而布めを参候ニ付後山へ遣し候

同十三日

一坂南郡・坂北郡と申村訳存候哉と御尋ニ御座候得共、慥ニ存候者無御座候付、其段与頭共連判証文御取被成候、写し別紙ニ有、番田村久七ニ言伝布目へ証文遣し候

同十四日

一初納金早々指上候様ニと助左衛門様の村々へ御廻状被遣候ニ付、添書いたし与下村々へ遣し申候  
一北村・笹岡・谷畠去納之殘金早々相濟させ申様ニと御廻状被遣候  
ニ付而、村々へ早々申遣し候

同十五日

一当夏御貸被成候金子紀州様へ渡り村之分引除、殘村々分拾八両壹分、前谷村武右衛門ニ為持遣し指上、助左衛門様御手形被遣候  
一政右衛門様へ金子杣左衛門妻越中参度通り御切手奉願、下手形安紙指上候へハ御直し候て被遣候  
一金津へ兵部様被為成候御悦ニ参、夫（之脱）新丞殿御見廻ニ布目村へ参候へハ、安嶋浦舟入間之義覚書指上候相談ニ懸り申候

同十六日

同十七日

同十八日

一前谷村清左衛門段々不届有之由ニ而、当十一日の舟寄へ被召寄、御詮義之上後山茂右衛門横目ニ而今日の閉門被仰付候ニ付、門を結申候

一布目村の罷歸り候

同十九日

一麻木簀式拾枚六本、長六尺は、七尺 前谷与  
一竹六拾本、式寸五分廻り 同  
右ハ御陣屋御用之由、廿日ニ持参申様ニ昨十八日之日付ニ而善右衛門はいふ、布目の村次ニ而参候を即刻ニ後山へ遣し申候

右之割

あさ木す拾枚

矢地村

同五枚

十楽村

同五枚

清王村

竹六拾本

菅野村

右之通申遣し候

十月廿日

一初納金村々遅々仕候ニ付舟寄へ参候、不足村々吟味いたし庄屋長百姓呼寄候而せんきいたし候  
一銀山扶持米三石ツ、出シ可申由、彦兵衛・茂右衛門・自分三人出

合可相渡定之

同廿一日

一 神田喜兵衛様去年の当夏迄舟寄御陣屋ニ御勤之内、様子悪敷由於江戸御屋敷ニ沙汰御座候ニ付、与頭共方を書付を以申分ケ仕候へハ、殿様被聞召上候而何之沙汰も御聞不被遊候由被仰聞候

同廿二日

一 御金村々せんきいたし候

同廿三日

一 清王村二郎右衛門江戸御供仕参候ニ付、我等請状指上候ニ付、九右衛門下請状取置候

一 壹本松茶屋共被召寄御詮儀之处誤り罷有候

同廿四日

一 前谷村清左衛門・同庄や市兵衛共ニ被召寄段々被仰聞、門を結候事御免被遊候

一 樂田・川崎出入之儀ニ付堀田殿由来御尋ニ付、布目彦兵衛・我等両判ニ而書付数右衛門様へ指上候、留有

同廿五日

一 村々庄屋長百姓舟寄へ呼寄候而、今度横田数右衛門様江戸へ御歸りニ付、証文被仰付候ニ付、判取候而指上申候

一 村々庄や共不残御いとま乞ニ罷出候、権右衛門も罷出候

同廿六日

一 殿様江戸へ御歸りニ付、東長田源左衛門・後山善兵衛福井迄参候、武兵衛・彦兵衛・善右衛門・我等ハ舟橋ニ而御暇乞申上、舟寄迄罷歸り候

同廿七日

一 村々廿三日の掛屋方へ相渡し候手形共、御取込ニ而御書かへ無之候ニ付預り置、今日不残御書かへ候而御手形請取申候  
一 当丑之御免状拾五通請取罷歸り候

一九分八厘 去免二八厘三毛下り 前谷村

一七分八厘 八厘三毛 北野村

一九分八厘 八厘三毛 北村

一式ツ式分八厘 式分三厘三毛 中川村

一式ツ五分八厘 壹分三厘三毛 田中村

一式ツ四分七厘 三分九厘三毛 笹岡村

一壹ツ五分式厘 九厘三毛 矢地村

一式ツ八厘 壹分八厘三毛 菅野村

一式ツ五分三厘 式分三厘三毛 宮谷村

一 壹ツ八分八厘 壹分八厘三毛 青野木村

一 五分八厘 壹分三厘三毛 西方寺村

一 貳ツ五分壹厘八毛 壹分四厘五毛 十楽村

一 貳ツ四分貳厘 壹分四厘三毛 清王村

一 九分八厘 八厘三毛 高塚村

一 壹分五厘 四分壹厘三毛 谷畠村

高六千六拾五石七斗七升九合 拾五ヶ村分

取米合千七拾壹石壹斗五升六合 丑年分

平均壹ツ七分六厘五毛九弗  
去免二壹分九厘七毛三弗下り

同廿八日

一 三田村六右衛門殿へ助左衛門様を御伝言、其上今度清左衛門義二  
付、自分事迄彦右衛門様を殿様被仰上候二付、御礼二六右衛門殿  
へ参候  
(大宮茂富・福井藩金津奉行)

一 来春御廻米御免被成候様にと石田・鯖江を願状上り申由二而、舟  
寄御下も与頭中寄合可仕由善右衛門方を廻状越候二付、布目へ遣  
シ候

一 笹岡長百姓・五人頭呼出残金之事申付候

同廿九日

一 舟寄へ何も与頭中寄合相談之上、来习之春御廻米御免被遊被下候

様にと願状御陣屋へ指上候、留有、村々判形有

一 前谷・後山・東長田三与御支配高嶋藤四郎様、布目・下兵庫式与  
神田政右衛門様、舟寄・大野郡・白山麓小木仙右衛門様、如此相  
極候

一 御月番十一月高嶋藤四郎様、十二月小木仙右衛門様、正月神田政  
右衛門様、末々如此二候

十一月朔日

一 舟寄を罷歸り候

同二日

同三日

一 丑年御免状相渡シ、則庄屋長百姓証文取候  
一 御廻米願状二判取候  
一 矢地村・菅野村庄屋替り願状請取候

一 ふしん所願候ハ、書付被指上候様にと申付候  
一 子御年貢金神田喜兵衛様・洪垂助左衛門様御手形、子春拝借金之  
御手形、御口銀米御手形、村々を請取置候

同四日

同五日

一 轟木村へ参、夏中かし金之義庄屋長百姓申渡し候上ハ、当月中二

相済可申由請合候

一布目村へ参候

同六日

同七日

一布目を罷帰候

同八日

一金壹両貳分

一金拾両三分

一金七両貳分

一金拾三両

一金三分

一金貳拾壹両壹分

一金拾七両貳分

一金貳拾五両貳分

一金拾六両壹分

一金貳拾貳両貳分

一金貳両三分

一金三両三分

一金拾九両三分

一金拾貳両壹分

谷畠村

高塚村

清王村

十楽村

西方寺村

青野木村

宮谷村

菅野村

矢地村

笹岡村

北野村

北村

中川村

田中村

一金貳両

前谷村

百七拾七両

右ハ当丑年御年貢金之内、当月十五日切二少も無遅滞上納可申候

十一月七日

洪垂助左衛門

右之通村々へ相触候間無滞相済候様ニと堅可被申付候、以上

前谷村二郎左衛門殿

初納金之内不足藤四郎様ニ而改書出し候

一金四両

谷畠村

一金壹分

清王村

一金拾五両壹分

青野木村

一金四両三分

矢地村

一金拾三両壹分

笹岡村

一金貳両

北村

一金貳両

中川村

一金壹分

前谷村

右之通不足二候

一去暮を当暮迄郡中指引割可仕由二而、与頭中不殘舟寄七左衛門方

へ寄合申候、立合庄屋ハ前谷与二而矢地村助右衛門、後山組清間

奥左衛門、布目与井江葭村次郎右衛門・加戸忠左衛門子、兵庫与

河間忠兵衛、東長田与田嶋善兵衛子、舟寄与中筋甚右衛門、森

川安右衛門、光明寺加兵衛罷出候

一矢地村善右衛門庄屋替り証文、菅野村甚左衛門庄屋替り証文、金

子左衛門娘菅野村を引取金<sup>(兼)</sup>定嶋村へ参候証文、以上三通之証文  
先月可指上之処、延引ニ候得共先月之御月番ニ候故、神田政右衛  
門様へ指上候

十一月九日

一舟寄の福居参、長谷部寿閑様御悔申上候

一木屋太郎兵衛と自分指引相済候

一脇指拵之事松屋吉兵衛ニ詔置申候、代金之内式分吉兵衛ニ相渡し  
候、舟寄七左衛門方へ罷帰り候

同十日

一子御年貢金神田喜兵衛様納之御手形、同未進丑夏御取立洩垂助左  
衛門様納之御手形、御口銀米子年年賦拝借返上金御手形共ニ村々  
の不残取あつめ、御陣屋へ持参仕、指引御算用仕、皆済状請取申  
候、我等ハ気分悪敷候ニ付不罷出、彦兵衛・茂兵衛を頼申候、但  
紀州様へ渡り之六ヶ村ハ未進相済不申候ニ付、勘定帳其村々ニ張  
紙ニ自分判形いたし指上候

同十一日

同十二日

一大野郡木本領家村ニ無諸役高有之候処、戌年の郷盛銀掛り申ニ付  
迷惑之由、領家村弥三右衛門断有之ニ付吟味仕候処、跡々勝山・

石田ニ而も郷盛懸り不申候由申ニ付、然ハ其段証文ニ致候ハ、当  
年の郷盛除可申由申聞候ニ付、則其段弥三右衛門証文いたし候、  
其証文舟寄村善右衛門方ニ指置候  
一京都愛宕寿元御札・扇持参被致候

同十三日

一舟寄ニ而指引割合相済候ニ付、立合ニ罷出候村々庄屋共罷帰り申  
候、大割本帳壹冊・水夫代銀内わり帳壹冊・惣指引算用帳壹冊、  
ノ帳三冊舟寄善右衛門ニ渡し申候

一新納金之不足式番割十五日切之御金、早々相済候様ニと藤四郎様  
の与下村々へ御廻状被遣候

一御門番半右衛門、来刁ノ年切米之義ハ来盛之節之事ニ寄相談可有  
事と申聞候、定候切米之外ニ金壹分とらせ候ハ、去暮切米年内相  
渡シ不申候ニ付、去年借金仕候ニ付利銀としてとらせ申候

同十四日

一子御年貢皆済御算用ニ付、銀壹匁六分五厘中川村御ふしんふち之  
内ニ而過、銀貳匁壹分壹厘菅野村御ふしんふち被下候ニ付過ニ成  
申由、銀九分高塚村不そく之由ニ候へ共指引不仕候ニ付、式匁八  
分六厘之過銀も取不申候

一与頭中不残舟寄の罷帰り候

同十五日

一与中指引割合、村々庄屋長百姓不殘寄合被申候

同十六日

一松山三ヶ所 貸主新屋宗兵衛、借主清王村

此代米四石同金四両貳分、コノ六月切

右之証文奥判いたし候

一指引割合相済候ニ付、此銀子来十二月十日迄之内ニ相済被

申候様ニと申、何れもへ申渡し候

一貳番割之御金早々被相済候様ニと堅申渡し候

同十七日

一本庄の三国へ参候而子ノ春の今日迄之算用、麦や太兵衛相済指引

出入無之候、書出し有

同十八日

一紀州様渡り村、東善寺・轟木・下関、当六月迄之与頭給相済候様

ニとはいふ遣し候

一当春御普請所古木入札仕候様ニと御廻状被遣候、案紙別紙ニ有

同十九日

同廿日

同廿一日

一清王村吉右衛門当春江戸へ参候ニ付、田畑庄屋長百姓として下シ付候処、弥五右衛門・市三郎方の下<sup>シ</sup>米立不申候由、権兵衛方<sup>シ</sup>断有之候付、はいふ遣し申候

一御陣屋の御急用之事有之候間、御廻状参着次第参候様ニと被仰越候ニ付、夜通シニ舟寄へ参候へハ、当春御廻米上乘玄女村太兵衛

江戸ニ而不届共有之ニ付、為御吟味之与頭中被召寄候

十一月廿二日

一舟寄ニ而中勘定之儀、金高の七分五厘取立申様ニと被仰付候而舟寄の罷歸り候

丑年御直段

一米方壹石ニ付銀四拾三匁七分九厘

一金方壹石ニ付銀四拾五匁七分九厘

一油壹升ニ付銀貳匁七分五厘

右之通ニ相極申候

一金貳拾五両銀拾三匁八分六厘

一金拾八両壹分銀二匁六分七厘

一金壹両三分銀拾壹匁分八厘

一金壹両貳分銀八匁四分九厘

一金壹両三分銀六匁九分

一金九両貳分銀貳匁四分

右ハ子御未進金仕切算用如此ニ候

下関村

轟木村

東善寺村

馬場村

新用村

山室村

同廿三日

一 丑年与頭給銀・同米代銀相究、村々へはいふに而申遣し候

一 宮谷義太夫江戸の義兵衛方へ状遣し候付、右之はいふと壺ツに遣し候

一 轟木の金壺両三分請取候、手形出し不申候

同廿四日

同廿五日

同廿六日

同廿七日

一 藤四郎様の与下村々丑御年貢・小物成銀共二惣銀辻之目録被遣候を、後山村の村次ニ参候

一 丑春伏替古樋材木入札被仰付候、轟木村・青野木村・宮谷村三ヶ村古木入札、前谷村市兵衛・北野久左衛門兩人の壺通ツ、入札仕候、北村・中川・笹岡・菅野四ヶ村入札ハ北村五兵衛・中川四郎左衛門兩人の壺通ツ、入札仕候ニ付、入札四通中川村之人足ニ為持藤四郎様へ指上申候、入札留書別紙ニ有

一 八木忠兵衛方へ金具ニいたし候間、色能上金壺分申度由ニ而金壺分遣し候得ハ、忠兵衛ふくいへ参候由ニ而金子を指置帰り候

一 棚村仁左義ニ付後山茂右衛門方へ手紙遣し候へハ、則返事参候

同廿八日

同廿九日

一 与村々庄屋長百姓呼寄、当御年貢初納の今日迄之上納手形相改、当中勘定段々申渡、帳面ニ判形取申候

一 御公義の御下知不請知行取無之由之証文ニ判形取申候

一 吉右衛門持高請作仕候者年貢米早々計可申候、権兵衛方之さん用之義、庄屋長百姓為立合吟味為致可申由、権九郎ニ申渡し候

一 十五日切御金不足之分早々相済候様ニと申付候

一 藤四郎様晦日ニ後山へ御越被成、朔日ニハ此方へ御こし可被成由御はいふ被遣候

同晦日

一 清王村弥五右衛門・甚右衛門参候付、吉右衛門当春何之断もなく何方へやらん参候付、持高村支配ニ為致置候付、下シ米取立御年貢ニ為相立、余り米有之ニ付而ハかり方へも為払可申候、御年貢相済不申内ニかり方へ引為取申事不罷成候間、請田年貢米ハ権兵衛方へ相渡し候様ニと申渡し候

十一月晦日

一 森川村南部安右衛門方の銀山人足之扶持米代銀取ニ参候ニ付、金貳両壺分ト銀壺匁八分安右衛門使七兵衛ニ相渡し申候、安右衛門手形状共ニ有、此銀子之義ハ布目彦兵衛・後山茂右衛門・自分三

人として銀子出し合候而、三石ツ、之扶持米相渡し可申由最前申合候ニ付、彦兵衛出し番之時金貳分出し申ニ付、此度之金子之内貳分銀五匁六分彦兵衛可出筈、三分銀五匁六分茂右衛門可出筈、自分ゝ壹両銀五匁六分可出筈、但彦兵衛出し番之時自分ゝ金三分可出処、貳分出し候ニ付如此ニ候

十二月朔日

一藤四郎様後山ゝ此方へ御越被成、十五日切割付金納不足、当中勘定之義ニ付村々庄屋長百姓被召寄段々被仰付、十五日切不足金早々上納可申由、村々庄や共証文被仰付候、并一昨廿九日ニハ惣金高ゝ七分五厘村々へ申付候得共、何も難儀仕候由達而訴訟ニ付、村々小百姓前せんきの上年内請合願之通自分内帳ニ判形取、其段内意を以藤四郎様申上、弥村々願之通ニ相究申候

一矢地村ニ而金津新屋宗兵衛取高之田・畑・山共ニ、善右衛門・半兵衛ニ下シ置申候処、年貢米相済不申候由請証文之写指添相断候ニ付、善右衛門・半兵衛呼寄右之段々吟味仕候処、宗兵衛方ゝ断之段々無紛無之由兩人申ニ付、然上ハ早々埒明申様ニと申付候  
一轟木村ゝ金壹両持参ニ付、彦兵衛方江請取之手紙遣し申候

同二日

一矢地村御金不足仕候ニ付御吟味可被成由ニ而、先月廿四日ゝ廿九日迄之内ニ召状三度被遣候得共庄や長百姓不参候ニ付、庄や式人

牢舎可被仰付由ニ相極候ニ付、与下庄や共色々御詫言申上候へ共御免不被遊候処、色々申上候ニ付手錠御打可被遊由、庄や兩人共ニ藤四郎様御状被指添候而御陣屋へ被遣候  
一藤四郎様布目村へ御用有之由ニ而御越被遊候、駕人足三人ハ矢地村、三人ハ菅野ゝ出させ申候、并藤四郎様昨夕ゝ今朝迄之御ふち代其外雑用銀壹匁五分、請取手形指上申候

同三日

一安嶋浦新泊り之訴状殿様江戸へ御持参被遊候処、相見得不申候間認江戸遣し候様ニと被仰越候間、早々罷出右訴状を写しくれ候様ニと布目彦兵衛方ゝ被申越候ニ付、布目へ罷越候

各御代官所去亥・子両年金銀納残ハ不及申、当丑ノ年ノ分御年貢金銀早々被相納、来月廿日時分迄之内ニ右金銀納札之写御勘定所へ可被指出候、以上

十月廿九日

右之通御頭様方ゝ御廻状之写被遣候、右御文言を相考当丑之御年貢無油断可取立之由被仰付候間、各御廻状之趣写置候而村庄屋為誦聞、無遅滞相納候様ニ可被申渡候、以上

十二月二日

洪垂助左衛門

与頭中

右廻状留り之方ゝ可被相返候、尤名下印判可被居候  
右之御廻状布目ゝ参候ニ付後山へ遣し申候

同四日

同五日

一 高塚村へ金津平野屋弥次右衛門かし方之儀ニ付而、弥次右衛門被  
参候而断被申候ニ付、高塚村庄屋長百姓へ早々埒明候様ニと申聞  
候

同六日

十二月七日

酒運上之義ニ付申渡御用之義有之候間、其村清左衛門参候様ニ可  
被申渡候、以上

十二月十七日

前谷村

次郎左衛門殿

洪垂助左衛門印

此書付清左衛門持参申様ニ可被致候

右之段、庄屋市兵衛ニ申渡し御手紙も為持遣シ申候

同八日

同九日

一 高四拾五石貸金平野屋弥次右衛門、借主高塚<sup>庄や</sup>長百姓

此代金拾壹両 来六月切、壹わり半

自分奥判いたし候

同十日

一 野田藤三郎類之者有無証文、早々指上候様ニと助左衛門様御は  
いふ被遣候

同十一日

一 矢地村庄屋共手錠之御詫申上くれ候様ニと申、長百姓中参候得共  
御金相済不申候ニ付、何共御詫言申上候事成間敷候間、中わり御  
金早々相済候様ニと申付候

同十二日

一 権右衛門舟寄へ遣し候ハ、矢地村庄屋共手錠之御わひ事其外御見  
廻ニ参候

一 藤四郎様後山へ御越被成候由、此方へ御手紙并ニ与下村々へ御廻  
状被遣候ニ付、添状致村々へ遣し申候

一 轟木村当五月取かえ金何かと申相済不申候ニ付、上関村次兵衛方  
へ参相断申候、下関与三兵衛ニもあい申ニ付、右金子之義申渡し  
候

同十三日

一 藤四郎様後山ニ被為成候ニ付後山村へ参候

同十四日

一 矢地村中割取立明日舟寄へ指上候間、庄や共手錠之義御わひ事申上くれ候様ニと申来り候ニ付、藤四郎様へ申上御陣屋御状被遣候を、矢地村之者ニ為持遣し申候

同十五日

一 藤四郎様後山村の御越被成候ニ付、村々庄屋長百姓被召寄上納御手形相改、残金廿日の廿二三日迄之内相済可申由村々申上候ニ付、則其段藤四郎様へ申上候

一 木内八九郎様十一月十三日之御状、藤四郎様を被遣請取申候、

一 野田藤三郎事証文藤四郎様へ指上申候

同十六日

一 轟木村百姓中へ金津新屋惣兵衛方の高質二取、銀米貸申由二而、戌暮証文五六通ニ添判仕候処、埒明不申候由惣兵衛方を断ニ作左衛門参候ニ付、添判もいたし候得共只今ハ領分も替り候間、上関次兵衛方を断申様ニと申遣し候

一 宮谷村義太夫・横越権兵衛十四日ニ舟寄迄参候由二而義太夫是迄参候

同十七日

一 梶村仁左、北村五兵衛方へ年季奉公仕候処、奉公不仕五兵衛方を罷出候付、請判梶市郎兵衛二人代立候様ニと申ニ付、仁左母を五

兵衛方へ来り・辰<sup>(マ)</sup>式年奉公仕候様ニと、後山茂右衛門殿・自分共ニ嘸候得共五兵衛聞不申候

同十八日

一 右之義ニ付北村五兵衛後山へ参候様ニと申遣候、五兵衛承引不仕候由茂右衛門方へ申遣候

一 盛銀之内金三両中川村人足ニもたせ舟寄善右衛門方へ遣し、手形請取候

一 梶村仁左母、来り辰迄式年之間北村五兵衛方へ奉公仕、辰ノ暮ニ古着褌ツとらせ可申筈ニ而双方納得ニ而相済候由、北村五兵衛・梶市郎兵衛方を断ニ参候

十二月十九日

一 清王権兵衛方を吉右衛門高下シ米、同払方指引算用帳持参候へ共、下シ米・払方共不知儀ニ候へハとかく可申様も無之候、吉右衛門罷歸り見申ためニ候間帳ハ此方ニ留置候

一 門松四鋸 長五尺五<sup>(蓋)</sup>かい松、長四尺杭木三拾式本、葉竹八本  
内

式かさりハ 笹岡村

式かさりハ 矢地村

右之通両村へ申付候

同廿日

同廿一日

一 藤四郎様後山村へ御越被成候、人足ハ𪛗人ハ北野、𪛗人北村、𪛗人中川、𪛗人田中、𪛗人前谷ハ罷出候

一 当十五日之夕ハ同廿一日之朝迄日数六日分、藤四郎様御賄雑用銀九匁請取、証文ハ指上候得共、銀子ハ御持参なく候ニ付請取不申候

一 高三石七斗九升四合 矢地村利兵衛

此代金三両壹分 かし主同村七右衛門

来刁ハ辰迄三年季証文ニ自分裏判仕候

一 高五石 矢地村<sup>七郎右衛門</sup><sub>長百姓</sub>

代金貳両 刁六月切壺割四分

かし主新屋惣兵衛、自分添判いたし候

一 山貳ヶ所 同断

代金貳両 右同断 是ハ子年書かへ証文

同廿二日

一 木内八九郎様ハ三田村六右衛門殿へ御状参候ニ付而金津へ持参仕候、次ニ乗兼村庄右衛門中川四郎左衛門出入之事、来春中御済被下候様ニと申達候、夫ハ本庄・三国へ参候

同廿三日

同廿四日

一 三国ハ罷歸り候

同廿五日

同廿六日

一 山五ヶ所 代金三両、かり主矢地村善右衛門

刁六月切壺割四分、自分添判致し候

かし主金津惣兵衛

一 高五石貳升 山三ヶ所 借主矢地村靈順

代金四両三分、寅ハ午迄五年季

かし主矢地村伝兵衛、自分添判

一 高九石 代金貳両三分 かり主高塚村

かし主北金津伝左衛門、刁六月迄壺割半

自分添判いたし候

一 高九石山共ニ 代金壺両壹分 <sup>矢地</sup>道雲

刁十月切壺割半かし、新屋宗兵衛

自分添判いたし候

一 山四ヶ所 代金貳両 かり主矢地清兵衛

刁六月切壺割四分、かし主宗兵衛

自分添判いたし候

一 高貳拾石山共 かり主矢地伝兵衛

刁六月切壺割、かし主宗兵衛

自分添判いたし候

一舟寄参、盛銀之残指引算用仕不残善右衛門方へ相渡し申候、但指引さん用状請取不申候ニ付、善右衛門留帳ニ判形仕置候、水夫銀ハ中ケ間出し方々へ払申候

一村蔵預り証文帳藤四郎様へ指上申候

一轟木村へ仙右衛門様御取かへ金三両、利足立不申本金ニ而相濟候

一下関村与三兵衛、子春上乘ニ参候而江戸ニ而御金壹両貳分かり申処、内五拾匁ハ上乘百日外まし給ニ被下候而、残四拾匁返上納仕付、助左衛門様へ指上御手形取候

同廿七日

一舟寄ニ而歳暮之御札申上罷歸り候、就夫江戸へ「ハ夫米御訴訟之事首尾能候、来<sup>(寅)</sup>□御廻米之事も御首尾能候由御状被遣候由、御陣屋ニ而被仰聞候

十二月廿八日

一笹岡<sup>(村)</sup>□称運寺出入事有之由ニ而、此間両「」得共宿ニ不罷有、其上庄屋同道ニ而被参候様ニと申渡し候由、依之称運寺被参候而、同村与三右衛門方寄進ニ寺へ付置候山之木を切取申由、吟味仕くれ候様ニと段々被申聞候、与三右衛門呼寄様子承、重而可申入之由申渡し候

同廿九日

一笹岡村与三右衛門参候而、山之木を切取候得共寄進山ニ而ハ無之候、自分持山之木を切取候、其上私宗門をかへ寺をかへ申候故ハ、称運寺へ山を付申事不罷成候と申候

一三国木屋七右衛門方へかし米証文判本見せニ木引善兵衛遣し候

同晦日

一称運寺代僧ニ玄庵被参候付、右与三右衛門申口申渡し候